

特集1 それぞれの「LINTEC WAY」への思い

2014年度は、各拠点でCSR勉強会を開催しました。一体感のあるCSR活動を支える社は「至誠と創造」から成る大切な価値観「LINTEC WAY」は、着実にグループ従業員に浸透してきています。それぞれが「LINTEC WAY」への思いを語りました。

私たちが歩むべき道 「LINTEC WAY」



**至誠を育む
5つの心得**

- 誠実であり続ける
- 真心は通じる
- 喜びをつくろう
- 与える人になる
- 仲間と家族を大切にする

**創造を育む
5つの心得**

- 成功するまで粘る
- ユニークを誇ろう
- 変化をしなやかにとらえる
- 地球視点で考える
- あらゆる可能性とつながる

至誠 誠実であり続ける



うそ偽りなく、正直にふるまい、真面目に真心を込めた行動が私の信条です。
代表取締役会長 大内 昭彦



全てが大切な心得です。あえて挙げるなら、この言葉を選びます。いつも、人として誠を尽くす心を忘れてはならないと思っています。
代表取締役社長 西尾 弘之



お客様から信頼されるためには、常に正直であるべきで、また常に全力で取り組むことを信条としています。
取締役常務 川村 悟平



事業の社会的責任（継続して発展・成長させること）を果たすため、誠実であることを真摯に考え続けることが大事と考えます。
取締役 服部 真



正直に誠実に暮らせば、やましさをない穏やかな心境をもつであろう。

琳得科（蘇州）科技有限公司
刘艳华（リュウ・イエン・ファ）



どんな、てらいもなく仕事をしていくことが不可欠です。

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ
（フィリピン）社
Rosana Alvarado（ロザナ・アルバラド）



良い品性を育むために非常に重要な方法の一つは、「誠実であり続ける」です。

リンテック・オブ・アメリカ社 シカゴ事務所
Neils Bray（ネルズ・ブレイ）



誠実な、人々の心を開かせることを信じています。

リンテック・フィリピン（ペザ）社
Felix Malabanan（フェリックス・マラバナン）



働きやすい環境をつくるために、誠実であることと家族を気にかけることが必要です。

リンテック・バンコク社
Punsub Leksomboon（プンサブ・レックソンプーン）



メーカーとしての責任と信頼関係を保つために必要なことと考えるからです。

福岡支店 川島 信子



日々の積み重ねが、品質向上につながるから。

熊谷工場 小野寺 菜々子



良好な関係と理解を従業員の間で構築できません。

リンテック・インダストリーズ（サラワク）社
Kevin Ingkie Barnabas Nassom（ケビン・インキー・バルナバス・ナソム）



真面目に仕事に取り組むこと。

大阪リンテック加工株式会社 園田 英二



誠実さは、私たちにとって最も重要な姿勢だから。

リンテックサインシステム株式会社 藤原 彰人



私のモットーだからです！

本社（監査室） 山岡 美香



どんなことにも当てはまる大切なことだと思います。

静岡支店 戸崎 めぐみ



仕事は当然ですが、生きていく上で大事な
こと。

新居浜加工所 羽藤 文隆



何ごとにも感謝の心を忘れずに臨みたいか
ら。

千葉工場 高橋 龍二

至誠 真心は通じる



単純明快に考え、まっすぐに努力すること
が私の基本です。

取締役副社長 浅井 仁



通常の間関係や商売の上でも、お互いの
信頼がないと真心も生まれない。CS（お
客様満足）の基本、信頼しあって真心を尽
くせば互いに幸せが訪れます。

取締役常務 中村 孝



真心を持って相手の立場を考慮して話しを
すると、相手も真心で返してくれます。

取締役 山本 敏夫



常に真心を込めた対応を心掛けたいです。

仙台支店 三浦 友莉恵



うそ偽りなく、正直にふるまい、真面目に
真心を込めた行動が私の信条です。

リンテック・インドネシア社
Sarni Pujiyanto（サルニ・プジヤント）



全ての方に真心を込めて接したいです。

リンテックコマース株式会社 石川 綾香



お客様一人ひとりを大切にしていきたい。
。

リンテックカスタマーサービス株式会社
土屋 陽介



地域・人種は違っても、人の真心は世界共
通だと実感しています。

リンテック・ヨーロッパ社 野口 洋平



仲間と楽しく働ける会社をつくります。
リンテック・ 코리아社
Ma Haeri (マ・ヘリ)



全ての人が組織にとって最も貴重な資産です。
リンテック・インディア社
Ankit Gupta (アンキット・グプタ)



人に感謝される仕事こそ自分の喜びです。
プリンテック株式会社 清水 大輔



あなたの満足は私たちの優先事項です！
リンテック・クアラルンプール社
Mok Yean Ni (モック・イェン・ニ)



自分の仕事における信念である「人に希望を与える、人に自信を与える、人に喜びを与える、人に利便を与える」に近いからです。
リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (台湾) 社
孫 麗婷 (スーン・リーティン)



人生の中で喜び=笑顔が最も大切と思うので。
龍野工場 山田 貴司



小さな喜びが次への原動力になります。
飯田橋 (加工材事業部門東京加工材営業部)
今野 由梨



「ありがとう」を多くの人々に発信したい。
吾妻工場 唐澤 英久



喜びがあると、やりがいを感じます。
札幌支店 山岸 則幸



笑顔が見たいからです。
東京リンテック加工株式会社 土田 沙織



お客様とのポジティブな関係を築く方法は、お客様のフィードバックに耳を傾けることです。

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ（マレーシア）社
Tee Yih Long（ティー・イー・ロン）



至誠 与える人になる



皆が「できる！」の精神で与える人になる。

マディコ社
Nattcha Milos（ナッチャ・ミロス）



地域に価値のある会社の一部であることに誇りを持っています。

リンテック・オブ・アメリカ社
Krystal Adachi（クリスタル・アダチ）



心にゆとりのある人になりたいです。

土居加工工場 桑岡 奈央



喜びや安心を与えられるようになりたいから。

北陸支店 長瀬 美穂



「利他※の心」で接し、お役に立ちたいと考えているからです。

※:利他：「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

伊奈テクノロジーセンター 野中 英明



人に与えることで心が満たされます。

熊本事務所 的井 達也



会社の健全な発展の基礎は、「誠実さ」と「仲間や家族を大切にする」社風であると考えます。

取締役常務 望月 経利



「人の和」を大切にし、強い信頼関係で働きたいです。

リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社

金 明珍（キム・ミョンジン）



どれも欠くことができない、明日の良い仕事をするための「糧」だから。

リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社

吉柳 秀二



「調和と信頼」を強調しているため、会社で働く快適さと誇りを感じます。

リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社

Rozlan Bin Osman（ロズラン・ビン・オスマン）



仲間意識を持つことは組織運営の原点です。

大阪支店 野尻 真由美



従業員間の結束が重要なものだと信じています。

リンテック・ジャカルタ社

Afifatul Khoir（アフィファトゥル・コイール）



職場の仲間たちと強い絆で結ばれています。

四国支店 平口 一樹



同僚やお取引先の皆様を大切にし、お互い楽しく働けるよう心掛けています。

リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（韓国）社

李 ハンナ（イ・ハンナ）



家族・同僚・お取引先、全ての人が大切な仲間です。

広島支店 岡村 幸彦





製造現場を預かる立場として、ものづくりのプロセスを楽しみ、細部までこだわり抜く思い、探究心と情熱を大切にしています。

取締役専務 小山 真二



時代や市況の変化を俊敏にとらえ、お客様の期待に応えることが最重要と考えています。

取締役常務 江部 和義



忍耐力は、高度な技術分野において特に重要です。

ナノサイエンス&テクノロジーセンター
Derrick Tolly (デリック・トリー)



テストから製品にするまで、クレームのないものに挑戦したら成功したと思うから。

リンテック・タイランド社
Piyapong Thongsong (ピヤポング・トングソング)



諦めず続けることが一番の近道だと思います。

リンテックサービス株式会社 鈴木 智巾



誠実な仕事を捧げると成功が来る！

リンテック・ハノイ・ベトナム社
Le Nguyen (レ・ニュエン)



より良い新製品のために妥協したくないから。

研究所 仁藤 有紀



目標が成功したら、より高みへと行けます。

リンテック・シンガポール社
Stanley Low (スタンリー・ロー)



「粘る」こそリンテックだと思うから。

名古屋支店 末永 愛美



「やってみたい」を現実に。

三島工場 礎 大貴

創造 ユニークを誇ろう



お客様、関係会社やサプライヤーと一緒に行動をすることが重要です。
リンテック・フィリピン（ペザ）社
Joanne Celis（ジョアンヌ・セリス）



ユニークでなければ新しい発想が創造されないから。
小松島工場 今治 茂雄



固有の発想や工夫は全員に無限の在庫があります。
富士ライト株式会社 三間 康



創造 変化をしなやかにとらえる



時代の変化が速く激しい現在、当社はそれに
応えられるポテンシャルがあると思いま
す。
取締役 森川 秀二



変化を柔軟にとらえ、ニーズに応えたい。
普林特科（天津）標籤有限公司
李大為（リー・ダウエイ）



「変化すること」を恐れずに挑み続けま
す。
新宮事業所 怒木 秀介



お客様の新しいプロセスと適格な品質に対
応するため。
リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（上
海）社
顾 恺恺（グウ・カイカイ）



変化が速い外部環境でフレキシブルな対応
により生存し発展し続ける。
琳得科（天津）実業有限公司
王 楠（ワン・ナン）



常にアンテナを張り、時代の波に乗り、次
の大きな発展を考えよう。
リンテック・ハイテック（台湾）社
陳 俊良（チェン・チュンリャン）



持続可能性を維持することができるように、変化に遅れないようにしなければなりません。

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ
(フィリピン) 社
Ruby Ann Lavado (ルビー・アン・ラバド)



創造 地球視点で考える



世界で成功するために、グローバルに考える必要があります。

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ
(ヨーロッパ) 社
Francis Zehentmeier (フランシス・ツェエーヘントマイヤー)



創造 あらゆる可能性とつながる



お客様に対して良い聞き手になる必要があります。

リンテック・ベトナム社
Nguyen Hoang Cuong (ニュエン・ファン・クン)



至誠 と 創造



心得の中からではなく、社是そのものを選びせてもらいました。私たち同様に先人たちが常に大切にしてきた言葉であり、私たちもしっかり引き継がなければなりません。

取締役副社長 川崎 茂



特集2 2025年のあるべきリンテック像を考える

リンテックグループでは、全従業員が自ら考え、行動し、一体感を持って活動するCSRを目指しています。2014年8月と9月の2回にわたり従業員一人ひとりが、リンテックグループのCSRを理解し、社会から信頼され続ける企業であるために、「2025年のあるべき姿を考える」ワークショップを開催しました。

ワークショッププログラム 開催日：第1回 2014年8月5日（火） 第2回 2014年9月2日（火）

【第1部】 未来志向を育てる

講義：CSRとは何か

講義：持続可能な社会とは何か

グループワーク：

2025年の「あるべき社会像」を描いてみる



さまざまな部署から参加

【第2部】 ギャップを測る指標づくり

講義：ギャップを測る指標とは

グループワーク：

「持続可能性指標」を作成してみる



講師によるアドバイス

【第3部】 CSRを自分ごと化する

グループワーク：

- 1) 2025年のあるべきリンテック像を考える
- 2) 2014年と2025年のリンテックのギャップを測る指標を作成してみる
- 3) 「アクションプラン」を策定する



各チームでまとめを発表

参加者の声

- 個人の目標として10年後をイメージしたことはあるが、会社として考えたことがなかったので良い経験になった。
- あるべき未来を想像して今を考える手法は、今まで経験がなく、大変参考になった。
- このような会に参加したのは初めてだが、CSRについて改めて深く感じる事ができた。
- 他人ごとではなく、自分ごととして受けとめ、一歩踏み込んで考えることが重要だと知る機会となった。
- CSRは心構えではなく実践するものであることが理解できた。
- 「あるべき姿」を意識し、日々邁進すべきと改めて認識した。

持続可能な企業であるためにCSRを「自分ごと」にする

2014年度、リンテックグループでは経営のグローバル化が進展する中、マテリアリティの特定を行うなど、CSRにおいてもグローバルスタンダードに沿った活動へと舵を切りました。

活動のグローバル化に伴い、グループが一体感を持ち、さらにCSR活動を全体で推進するためには、従業員一人ひとりがどのように活動していくかを主体的に考えることが重要になってきます。

こうした状況を背景にリンテックは、2014年8月と9月の2回にわたり、CSRを自分ごととしてとらえるためのワークショップ「2025年のあるべき姿を考える」を開催しました。

外部講師に協力いただき、各回36名の従業員が参加し、2025年のあるべき姿について議論しました。

2025年のリンテック像に向けて新たな気付きと今後の取り組み

当日は、さまざまな部署から参加した従業員たちが6チームに分かれ、3部構成のグループワークに取り組みました。

第1部と第2部では、「CSRとは何か」「ギャップを測る指標」について、講義を受けました。第3部の「CSRを自分ごと化する」では、バックカスティング手法*を用い、2025年のあるべきリンテック像を考え、そのために今すべきことは何かを各チームで意見交換しました。各チームは、自分たちがすべきことを考え、アクションプラン策定のためのアイデアを出し合いました。グループワーク終了後は、各チームごとに発表と講評が行われ、全員でアイデアや考えを共有しました。2025年のあるべき姿として、「海外へのさらなる進出と新規事業の確立」「全員が同じ方向を理解し、ビジョンを持っている会社」など、各チームからさまざまな意見が挙がりました。

参加した従業員からは「これからの自分の行動について考えさせられた」「皆が持続可能な社会へ向かう共通認識を持てるかが、大きな課題だと感じた」といった声が聞かれました。また、協力いただいた外部講師からは「限られた時間の中で、リンテックグループはどうあるべきかという真摯な思いが寄せられました。こうした部署横断的な対話を続けることで、攻めのCSRにつながる新たな取り組みにつなげてほしい」とコメントを頂きました。

さまざまな立場の従業員が、年齢、部門を越えてリンテックグループのCSRや2025年のあるべき姿を考え、共有する貴重な機会となりました。

今回のワークショップを足がかりに、一人ひとりが自ら考え、行動し、一体感を持って活動するCSRを基本に、事業を通じた攻めのCSRを実現するため、今後はさらに具体的な取り組みにつなげるワークショップを計画していきます。

* バックカスティング手法：未来を考える上で、目標となるような状態・状況を想定し、その想定から現在に立ち返って、今何をすべきかを考える手法。



Voice 参加者のコメント

CSR活動は企業レベルの活動、慈善事業といったイメージが強くありました。しかし、ワークショップを通じて、身近な目標の積み重ねが大切であり、それが持続的成長につながると感じました。「LINTEC WAY」を歩むのは自分です。一社会人としては至誠を意識し、一研究員としては創造を目指し、喜びを与えることから生まれる攻めのCSRを目標にします。CSRに対する印象が大きく変わる良い機会になりました。



研究所 製品研究部
粘着材料研究室 主任
富能 忠寛

トップメッセージ



CSR活動の根幹にあるのは、「至誠と創造」の精神です。

リンテックグループは、粘着素材分野におけるリーディングカンパニーとして、粘着応用技術や表面改質技術などの独自技術から生まれた多彩な製品を社会に提供しています。社是「至誠と創造」の下、誠実かつ独創的な“ものづくり”により着実な成長を続け、2015年3月期の通期連結業績においても、電子・光学関連事業の好調や円安効果も手伝って、前年に比べて増収増益を確保することができました。

私たちにとって「至誠と創造」は、CSR活動においても取り組みの根幹にある精神だと考えています。法令遵守や公正な取引、誰もが働きやすい職場環境の整備など、事業活動の基本である「守り」のCSRは、全ての仕事に真心を込めて取り組む「至誠」の精神です。一方、社会的課題の改善・解決に寄与する製品づくりなどの「攻め」のCSRは、前例にとらわれず常に工夫と改善に取り組む「創造」の精神が原動力となっています。

さらなるCSR活動の進展を見据え、「守り」と「攻め」の両面を強化しています。

リンテックグループは、2014年度からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」において、「グローバル展開のさらなる推進」「次世代を担う革新的新製品の創出」「強靱な企業体質への変革」「戦略的M&Aの推進」「人財の育成」の五つを重点テーマとして掲げています。中でも「グローバル展開」は、「海外売上高比率40%以上」の実現を経営目標とする私たちにとって最重要課題と位置づけています。目標達成に向けた事業範囲の拡大に伴い、2014年度はガバナンス体制の整備に力を注ぎました。

リンテックグループでは、ASEAN地域およびインドなどでの事業強化・拡大に向けた生産・販売拠点の拡充を図っています。2015年1月、同地域における事業戦略の立案・実行、経営資源の効率的な活用と、ガバナンス強化などを担うことを目的にASEAN地域統括会社として、リンテック・アジアパシフィック社(LAP社) *1をシンガポールに設立しました。

また、2015年5月施行の改正会社法により導入された「監査等委員会設置会社*2」に移行し、取締役会の監査・監督機能の強化と、コーポレート・ガバナンスのより一層の充実を図っていく体制を整えました。

しかし、体制面の整備だけでは不十分であり、従業員一人ひとりの意識向上がガバナンス強化には不可欠だと考えています。そこで、全ての従業員を対象にCSR意識の向上を図るため、CSR推進室が国内外の各拠点を訪問し、CSR勉強会を開催。社是「至誠と創造」から成るリンテックグループ従業員のあるべき姿を明文化した“LINTEC WAY”の意識定着に努めました。勉強会参加者のアンケートでは「参考になった」「勉強になった」「家族とも共有したい」など前向きなコメントを数多く目にし、個々のCSR意識が着実に向上していることが実感でき、非常にうれしく思っています。

こうした取り組みは、「至誠」の精神から成る「守り」のCSRを強化するものであり、今後さらにCSR活動を進展させていく上での基盤強化につながったと感じています。

一方、「創造」の精神から生まれる「攻め」のCSRの象徴的な取り組みが、「LIP-2016」の重点テーマの一つである「次世代を担う革新的新製品の創出」です。これは、リンテックグループが今後も事業活動を続け、社会に貢献していくために非常に重要なテーマです。実現には、将来を見据えて社会の変化に対応しながら、ほかにはないリンテック独自の技術確立していく研究開発の姿勢が必要だと私は考えており、何より重要なのが組織の連携です。

このテーマに関わる取り組みとして、2014年8月と9月にCSRワークショップを開催しました。組織横断的に各部門から参加者を募り、社会的課題の視点からリンテックグループの将来のあり方を考察した本ワークショップでは、理想のリンテック像に向けたビジョンが芽生えるとともに、部門を超えた交流も生まれています。社会的課題解決を目指した既存製品にとらわれない製品の創出に向けての一歩であり、この取り組みを推進していきます。

中期経営計画「LIP-2016」（2014年4月1日～2017年3月31日）

基本方針

攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す

重点テーマ

1. グローバル展開のさらなる推進
2. 次世代を担う革新的新製品の創出
3. 強靱な企業体質への変革
4. 戦略的M&Aの推進
5. 人財の育成

*1 LAP社：LINTEC ASIA PACIFIC REGIONAL HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED

*2 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上（過半数は社外取締役）で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

マテリアリティ（重点課題）を特定し、体制整備と指標づくりを行います。

2014年度は、リンテックグループが社会、環境に与えるポジティブ／ネガティブな影響を抽出し、社内外のステークホルダーの声を参考に議論を重ね、マテリアリティを特定しました。今後は、特定した項目ごとに主要取り組み指標（KPI）*を設定し、目標達成のための体制整備を進めていく予定です。

マテリアリティを軸としたCSR活動のPDCAサイクルを回していきたいと考えています。

まだ、取り組みは始まったばかりですが、今後は、このマテリアリティを見直していく過程で、「守り」の面だけではなく、事業の成長や新製品の創出といった「攻め」のCSRにつなげていくことを期待しています。

* 主要取り組み指標（KPI）：Key Performance Indicator。目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

“損得”ではなく“善悪”で、人や社会のために尽くしていきます。

先に述べたとおり、リンテックグループのCSR活動の根幹には、社是「至誠と創造」があり、私は常々、従業員に対して「人として胸を張れる行動をとってほしい」と話しています。従業員一人ひとりが、“損得”ではなく“善悪”を物事の判断基準とし、常にCSRの意識を持ちながら、世のため人のために全力を尽くしていくこと。これは国境や文化、宗教を越え、全従業員が共有しなければならない考えです。そして、私たちのCSR精神に国境はありません。リンテックグループが持続的成長を遂げる企業であり続けるために、今後も全従業員が一丸となり、「至誠と創造」から成るCSR活動を推進し、ステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解いただくために、2014年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

リンテックグループのCSR



● 社是 至誠と創造

● 経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ(結合)”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」

For tomorrow we build today

本業を通じたCSRの実践

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であるために、社是「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSR基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

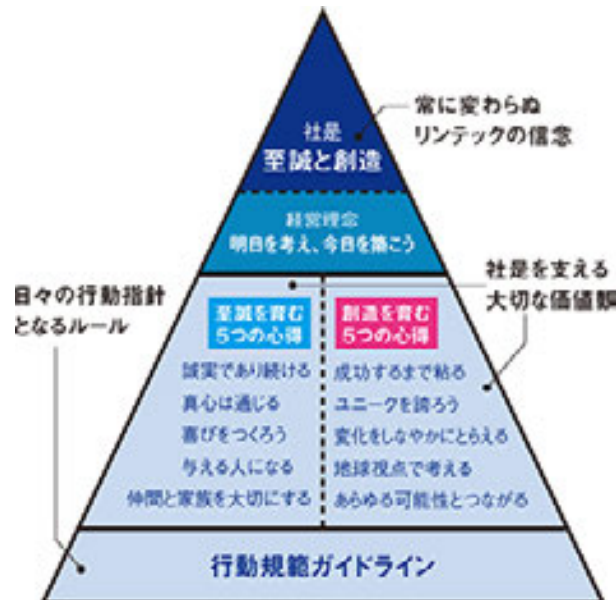
また、2014年4月からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」の実現のためには、グループ経営の強化が重要であり、グローバルでのCSR活動を継続的に進めています。リンテックグループでは、CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、本業を通じたCSRを実践するため、2014年度はマテリアリティ（重点課題）を特定するなど、グループ全体で戦略的にCSR活動を行っています。



私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心を一にし、同じ方向を目指すための道標として「LINTECWAY」を策定しています。「LINTEC WAY」は、社是「至誠と創造」を支える大切な価値観として、10の心得から成り立っており、リンテックグループ従業員のあるべき姿として明文化されたものです。

2014年度は、「LINTEC WAY」の浸透を目的に、国内外のグループ会社でCSR勉強会を開催しました。



○至誠を育む5つの心得

1 誠実であり続ける

私たちリンテックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはうそ偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人とのかかわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

2 真心は通じる

私たちリンテックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができる我们相信からです。

3 喜びをつくろう

私たちリンテックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えます。そのためにも私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組みます。

4 与える人になる

私たちリンテックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが真摯に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながると信じているからです。

※利他とは「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

5 仲間と家族を大切にする

私たちリンテックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

○創造を育む5つの心得

1 成功するまで粘る

私たちリンテックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり抜きます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

2 ユニークを誇ろう

私たちリンテックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンテックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

4 地球視点で考える

私たちリンテックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を永続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンテックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。

CSRの基本姿勢

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」の下、六つの基本姿勢に沿って取り組みを進めています。

企業倫理・コンプライアンスの徹底

安全防災・健康の確保

CS(お客様満足)の向上

社会貢献

環境への配慮

株主・投資家重視の経営

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

「国連グローバル・コンパクト」への参加

リンテックグループは2011年4月から、「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

人権

原則 1 : 人権擁護の支持と尊重

原則 2 : 人権侵害への非加担

労働基準

原則 3 : 組合結成と団体交渉権の実効化

原則 4 : 強制労働の排除

原則 5 : 児童労働の実効的な排除

原則 6 : 雇用と職業の差別撤廃

環境

原則 7 : 環境問題の予防的アプローチ

原則 8 : 環境に対する責任のイニシアティブ

原則 9 : 環境にやさしい技術の開発と普及

腐敗防止

原則10 : 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

ISO26000

「ISO26000」はあらゆる組織における社会的責任に関する国際標準規格です。リンテックグループでは七つの中核主題を参考に、CSR活動を推進しています。

七つの中核主題

社会的責任の中核主題		組織統治
	組織統治	意思決定プロセス及び構造
	人権	(1)デュー・ディリジェンス (2)人権リスク状況 (3)共謀の回避 (4)苦情処理 (5)差別及び社会的弱者 (6)市民的及び社会的弱者 (7)経済的、社会的及び文化的権利 (8)労働における基本的権利
	労働慣行	(1)雇用及び雇用関係 (2)労働条件及び社会的保護 (3)社会的対話 (4)労働における安全衛生 (5)職場における人材育成及び訓練
	環境	(1)汚染の予防 (2)持続可能な資源の使用 (3)気候変動の緩和及び適応 (4)自然環境の保護及び回復

	<p>公正な事業慣行</p>	<p>(1)汚職防止 (2)責任ある政治的関与 (3)公正な競争 (4)影響範囲における社会的責任の推進 (5)財産権の尊重</p>
	<p>消費者課題</p>	<p>(1)公正なマーケティング、情報及び契約慣行 (2)消費者の健康及び安全の保護 (3)持続可能な消費 (4)消費者サービス、支援及び紛争解決 (5)消費者データ保護及びプライバシー (6)不可欠なサービスへのアクセス (7)教育及び認識</p>
	<p>コミュニティ参画及び コミュニティの発展</p>	<p>(1)コミュニティ参画 (2)教育及び文化 (3)雇用創出及び技能開発 (4)技術開発 (5)富及び所得 (6)健康 (7)社会的投資</p>

ステークホルダーとのコミュニケーション

社会からの期待に応えるためにリンテックグループは、ステークホルダーの方々と積極的な対話を図っています。

<p>お客様</p>	<p>製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外の展示会への出展 ■ お問い合わせ窓口 など
<p>お取引先</p>	<p>公正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ サプライヤーズデイ ■ 説明会 ■ アンケート など
<p>地域社会</p>	<p>地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工場見学 ■ 意見交換会 ■ 社会貢献活動 など
<p>従業員</p>	<p>社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニケーションマガジン発行 ■ イン트라ネット など
<p>株主・投資家</p>	<p>企業価値の向上と信頼関係の構築を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 株主総会 ■ IRミーティング ■ 海外投資家訪問 ■ 株主通信「WAVE」の発行 ■ ホームページ など

マテリアリティの特定★

リンテックグループは、CSR活動のさらなる推進とステークホルダーからの要請に応え、リンテックグループにとってのマテリアリティを特定しました。

★マークについては[こちら](#)

グループ全体の取り組みにおけるマテリアリティを特定しました。

リンテックグループが社会とともに持続的に発展するためには、社会と対話しその要請に応えることが重要だと考えています。GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」第4版（G4）では、当社およびステークホルダーにとってマテリアルな（重要性の高い）情報を選択した上で開示することが、より一層求められるようになりました。こうしたグローバルでの潮流も背景に、2014年度は、ステークホルダーの皆様の意見を伺いながら、マテリアリティを特定しました。

特定したマテリアリティは長期的視点での活動へ展開していきます。さらに主要取り組み指標（KPI）*の策定を進め、活動のPDCAサイクルを回していく予定です。また、社会の変化や活動の進捗状況など必要に応じて、特定したマテリアリティの見直しを図ります。

今後も、「社是」と「経営理念」の下、グループ一体となって特定したテーマに取り組んでいきます。

* 主要取り組み指標（KPI）：Key Performance Indicator。目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

マテリアリティ特定プロセス

STEP1 検討すべき CSR関連課題の抽出

まず、ISO26000やG4の46側面、CSR調査機関による調査項目などの枠組みから課題を整理。これにグループ従業員によるワークショップ（P16参照）、他社ベンチマークの結果、リンテックグループの事業バリューチェーンにおいて、社会、環境、ステークホルダーに影響を及ぼすテーマを考慮し、検討すべき「CSR関連課題」64項目を選定しました。



STEP2 優先順位付け

選定した項目に対して、項目ごとにこれまでの活動および今後の活動目標まで考慮し、社内での優先順位付けを行いました。また、CSR・サステナビリティに関する調査機関の質問項目を社外優先順位付けに利用するとともに、これまで当社の活動に関わっていただいた社外有識者の方々に、活動背景などをまとめた資料を基に、項目を評価していただきました。これら社内・社外二つの視点で評価・分析し、マテリアリティを特定しました。



STEP3 妥当性の確認

特定したマテリアリティについて、影響の範囲（バウンダリー）や今後の対応・目標などの妥当性をSTEP2で評価いただいた有識者の方々に確認していただくとともに、CSRに関する最高意思決定者である社長による評価・承認を得ました。

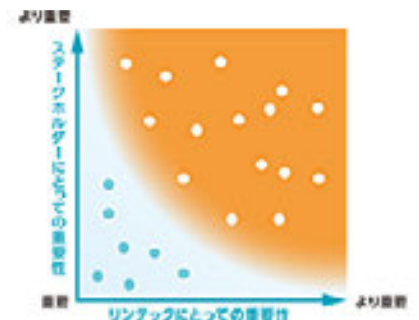
STEP4 レビュー

CSRレポートにおいて、プロセスおよび特定したマテリアリティを開示。活動をレビューし、必要に応じた見直しを行っていきます。

マテリアリティマップ

STEP2において、社内・社外の二つの視点で特定したマテリアリティを「リンク先にとっての重要性」「ステークホルダーにとっての重要性」という軸でマッピングしました。

下記15項目については、主要取り組み指標（KPI）を策定し、経年で活動評価を行っていく予定です。また、下記に含まれない項目についても、リンク先グループのマテリアルな項目として従来どおり活動を続けていきます。



マテリアリティ		対象範囲（バウンダリー） ○は該当		選定背景
		社内	社外	
事業面での 貢献	発展途上国における地産地消のビジネスモデルの構築	○	○	粘着製品の有用性を広め、発展途上国への有用な製品の提供、品質重視の姿勢でのグローバル展開を行う。現地での需要創出、現地調達を一層進め、ビジネスモデルの水平展開を図る必要がある。
	新規分野への進出	○	○	現状の技術力・開発力の強み・弱みを認識しつつ、グローバルな顧客ニーズ、社会課題に対応した新分野への進出を図る。ステークホルダーとの対話を通じて社会性（安全、品質、価格など）にも配慮する必要がある。
組織統治	グローバルガバナンスの運営	○	○	グローバルに事業を展開する上で、各国の法規制のレベルを超えた、高次の戦略的グローバル管理体制の構築と執行と監督の役割分担、方針の明示を進め、運用を図る必要がある。
環境	原材料の効率的な利用	○	○	石化原材料・パルプ・水を用いており、資源の枯渇は社会の持続可能性に影響を及ぼす。また、調達において安定的に入手できなくなる材料もあることから、使用量の減量・効率的な利用も求められる。
	大気への排出物の削減	○	○	温室効果ガス、オゾン層破壊物質、VOCなど、大気への排出物は、地球全体に影響を及ぼすものであり削減が求められている。総量での管理など、戦略的な取り組みが必要である。
	製品およびサービスを通じた環境面での貢献	○	○	開発から製造、製品使用時や廃棄において、環境配慮への必要性が高まり、LCA*1管理は必要不可欠である。さまざまな業界に提供する製品面での配慮が重要となる。
	環境面でのコンプライアンス対応	○	○	環境規制は地域によって対象物質や規制方法が異なる。今後は新興国や途上国における大気、水質、騒音、振動など公害につながる法規制対応のため、正確な制度の把握と対応が必要とされている。

労働慣行	労働安全衛生への対応	○	○	当社の労働安全衛生にとどまらない、主要な途上国のサプライヤーも含めた状況の把握・対応が求められる。また、メンタルヘルスへの対応も重要になっている。
	職場におけるダイバーシティの実現	○	-	働きやすい職場づくりのためには、ダイバーシティ（ジェンダー、マイノリティ、LGBT*2など）への配慮が重要であり、経営的な競争優位の確保として多様性実現に向けた方針策定が必要となる。
	従業員満足度の向上	○	-	従業員は当社にとって重要なステークホルダー。企業の長期的成長は、従業員が誇りを持って働き、満足度が高いことが前提である。
社会	人権デューデリジェンス*3の実施	○	○	調達先はグローバルに広がっており、1次サプライヤーにおいて人権リスクを把握していくこと、SCM*4全体で人権が守られるよう関係者への教育・監査体制の充実が重要になっている。
	社会面でのコンプライアンスへの対応	○	○	社会面に関する法規制は、地域によって対象や規制方法が異なるため、正確な制度の把握が必要。各国の状況を集約しグローバルな管理体制を連携・整備していく必要がある。
	製品面でのコンプライアンスへの対応	○	○	製品に関する規制は地域によって対象物質や規制方法が異なるため、正確な制度の把握が必要とされている。製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービスの向上を推進することが不可欠である。
	持続可能な消費への貢献	○	○	幅広い商品の表示に関わる素材メーカーとして、消費者の適切な購入の選択を助けるため、さまざまな用途に適した表示用ラベルの実現、情報開示、消費者配慮製品の開発などが求められている。
	地域コミュニティとの共生を実現	○	○	グローバル展開を進める中で、地域コミュニティとの接点は増加する。企業は地域や社会に支えられており、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行う必要がある。

*1 LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

*2 LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害など）の頭文字で、性的少数者の総称の一つ。

*3 人権デューデリジェンス：組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するためにそれに対処するプロセス（ISO26000 6.3.3人権に関する課題1）をいう。グローバルに対応が求められる「ビジネスと人権に関する指導原則」における「保護、尊重および救済」の枠組みを踏まえたもの。

*4 SCM：サプライチェーンマネジメント。材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れを最適に整理・管理していくこと。

CSR活動テーマと目標・実績

リンテックと社会がともに持続的に発展するためには、法令遵守はもとより、社会からの要請に応えるさまざまな取り組みが必要です。CSRの基本姿勢に合わせ組織横断的なメンバーで構成された委員会が、CSR活動を推進しています。

2014年度 CSR活動テーマと目標・実績

基本理念	活動テーマ	2014年度の目標	達成状況	2014年度の主な活動実績	2014年度 活動報告
①企業価値(法令遵守)を重要な経営課題と位置づけ、従業員一人ひとりの意識の浸透と日々の実践を推進する	●従業員一人ひとりが自覚を持って働き実践として行動する ●コンプライアンスの徹底を図り、社会から信頼される会社を目指す	●両方向(律)型による両面での浸透 ●各種研修プログラムの浸透化と実施 ●情報セキュリティ(個人情報保護)対策 ●就業活動の推進による後援者の拡大・深耕	○	●「リンテックのからげ」の継続と、小冊子の発行 ●「オンライン『女性活躍促進』」などの実施 ●情報セキュリティ(個人情報保護)対策 ●「セクハラ防止」の徹底と、「就業活動に対する前向き」の改革を推進	企業統治 企業統治の推進 企業統治の推進 企業統治の推進
お客様からの信頼確保と責任を果たすことを基本に置いた、製品の安定供給および品質とサービスの向上を推進する	●品質向上(開発) ●品質(品質-製造) ●社内コミュニケーション(業務)	●「デザインレビュー」の徹底推進 ●早く良いものを生み出す ●開発活動の見える化 ●グローバルな標準でのものづくり ●自覚を持ったものづくり ●情報の伝達 ●市場、業界トレンドの把握 ●部門間の情報交換促進 ●人材育成 ●企業文化の浸透	○	●「オンライン『デザインレビュー』」の実施 ●新生産品の品質保証活動の開始 ●入社10年目-15年目を対象とした研修/設計推進委員会主催 ●新入社研修で「CS」と「社風」の啓蒙を実施	社会性報告 社会性報告の推進 社会性報告の推進 社会性報告の推進
従業員満足度の向上を基本に置いた、安心して働く職場環境の整備を推進する	●OC(月報) (社内手帳の徹底しフォロー) ●職場の安全と安心/健康促進体制の確立 ●社員のメンタルケア ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進	●労務安全マネジメントシステムの維持管理 ●メンタルヘルスマネジメント体制の充実 ●社員の健康促進 ●「EHS」委員会の安全情報共有、安全管理 ●健康診断の徹底 ●社員のインフルエンザ感染の減少 ●社員研修の減少 ●社員研修の減少 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進	○	●労務安全マネジメントシステムの維持管理 ●メンタルヘルスマネジメント体制の充実 ●社員の健康促進 ●「EHS」委員会の安全情報共有、安全管理 ●健康診断の徹底 ●社員のインフルエンザ感染の減少 ●社員研修の減少 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進 ●社内コミュニケーションの推進	従業員満足度の向上 従業員満足度の向上 従業員満足度の向上 従業員満足度の向上
地域・国際社会に貢献する企業市民として、社会的課題の解決に参画し、それら社会の持続的発展に貢献する姿勢を身につけた活動を推進する	●地域貢献活動 ●社会貢献活動 ●国際貢献活動	●地域社会との交流 ●活動の充実と推進 ●従業員への活動参加意識の向上と浸透	○	●地域貢献活動の実施(2,813人参加) ●社会貢献活動の実施(2,813人参加) ●国際貢献活動の実施(2,813人参加)	地域貢献活動 社会貢献活動 国際貢献活動
株主・投資家重視の経営推進 コーポレートブランディングの向上	●株主・投資家重視の経営推進 ●コーポレートブランディングの向上	●株主・投資家重視の経営推進 ●コーポレートブランディングの向上	○	●株主・投資家重視の経営推進 ●コーポレートブランディングの向上	株主・投資家重視の経営推進 コーポレートブランディングの向上
本社メーカーとしての「環境負荷の低減」(資源の有効利用)を基本に置いた、研究・開発および生産などの全社的活動を推進する	●法令遵守の徹底 ●環境負荷低減-資源の有効利用 ●安全多様性の確保 ●製品の環境配慮製品の開発 ●CO ₂ 排出量の削減 ●エネルギー使用量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質の管理徹底 ●大気汚染防止の徹底	●法令遵守の徹底 ●エコユースを20件実施 ●各サイトにて活動計画を立案 ●社内の「CO ₂ 削減」推進に向けた啓発活動12件/年 ●目標数値305,000t/年以下 ●エネルギー削減率3%改善(2013年度比) ●廃棄物発生量29,000t/年以下 ●プロジェクトによるサブプライマー自産品50t/年 ●目標数値150t/年	○	●各サイトの環境法令適合内閣監査実施 ●22件配備で目標達成 ●地域活動への参加など各サイトで活動実施 ●開発件数23件/年で目標達成 ●202,000t/年で目標達成 ●2013年度比4.6%で目標達成 ●29,110t/年で未達成 ●50t/年の削減実施で目標達成 ●903t/年で目標達成	環境報告 環境報告 環境報告 環境報告

※ 1: EHS (Emergency Management) 関係、海外に製造拠点を有する従業員に対する安全啓発活動の推進。
 ※ 2: EHS (Emergency Management) 関係、海外に製造拠点を有する従業員に対する安全啓発活動の推進。
 ※ 3: EHS (Emergency Management) 関係、海外に製造拠点を有する従業員に対する安全啓発活動の推進。

CSR推進室 室長 真木 亨

リンテックグループの全従業員が自ら考え行動するCSR（企業の社会的責任）を目指しています。CSRの根幹は社是「至誠と創造」です。2014年度はCSRを自分ごと化するために、社是から成るあるべき姿を表わした「LINTEC WAY」のCSR勉強会とCSRワークショップを実施しました。CSRへの取り組みはPSR（個人の社会的責任）にも反映され、個人としての成長を実感する機会にも結びつくと考えています。当社グループが持続的成長を遂げるために、企業と個人が一体感を持って成長を実感することができるCSR活動を推進していきます。

暮らしの中にあるリンテック

リンテックは、粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



建物用ウインドーフィルム

窓ガラス全面に貼ることで、震災などによるガラス破損時の破片の飛散・落下防止効果をはじめ、紫外線カット、断熱、防犯対策、プライバシー保護などのさまざまな機能を発揮するウインドーフィルム。透明タイプや着色・反射タイプなど多彩なアイテムをラインアップしており、特に安全対策や節電対策といった観点から、昨今非常に注目を集めています。



|| マーキングフィルム

耐候性、耐熱性、耐水性、耐油性などさまざまな優れた特徴を備えた、豊富なカラーバリエーションの耐久性粘着フィルム。屋外看板や車体のロゴなどに最適です。また、大判デジタルプリントにより多彩なビジュアル表現が可能な各種素材もラインアップ。商業施設の大型広告や、鉄道・バスなどのラッピング広告用途で幅広く使用されています。



|| 自動車用ウィンドーフィルム

自動車の窓ガラスに貼るウィンドーフィルム。豊富な色と質感のバリエーションで、ドライバーの感性に響く高級感のある外観・車内空間演出を実現します。同時に、優れた断熱性能により車内の空調効率を高め、快適空間を実現します。さらに、高透明タイプアイテム各種、ラインアップしています。



|| シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム

各種商品のブランド表示用ラベルや、スタンドタイプアイキャッチラベルなどをはじめ、自動車・電気機器などの銘板用・警告用ラベル、冷凍庫や冷蔵庫に入れたり、加熱処理したりする食品用ラベル、バーコード印字などにも適した物流用ラベル、さらにはウェットテッシュ用の開閉ラベルや、粘着メモなどに至るまで、実に多彩なラベル素材を開発し、ご提供しています。



|| 半導体関連テープ・装置

回路形成後の半導体ウェハを裏面研磨し、薄型化するプロセスに使われる回路面保護テープ、ウェハを一つ一つのチップに切断するプロセスにおいて、ウェハをリングフレームに固定するテープ、さらには切断後のチップ裏面にそのまま粘接着剤を転写し、チップ実装・積層プロセスの簡略化に寄与するテープなど、実に多彩な高機能テープと、それを貼付・剥離する各種電子装置を開発しています。



|| 液晶ディスプレイ用フィルム

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない偏光フィルム、位相差フィルムなどを貼り合わせるための粘着加工や、貼り合わせのための両面粘着シートの供給、さらにはディスプレイ表面へのきずつき防止や、蛍光灯などの映り込み防止のための、フィルム表面の防眩ハードコート加工などを行っています。



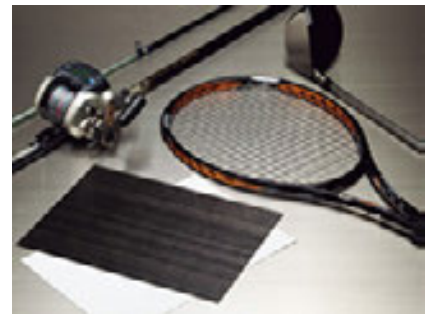
|| 積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム

多くの電子機器に内蔵されている積層セラミックコンデンサーの製造工程において、極薄のセラミック層を形成するうえで不可欠な剥離フィルム。セラミックの誘電ペーストを薄く、均一に塗ることができ、かつきれいにはがせることが求められます。当社の剥離技術、精密薄膜塗工技術の粋を結集した製品です。



|| 炭素繊維複合材料用工程紙

強く軽い素材として、ゴルフクラブや釣り竿、さらには航空機のボデー部材などに使われている炭素繊維(カーボンファイバー)。これを樹脂で固めてシート状にするプロセスにおいて、当社の工程紙と呼ばれる剥離紙製品が使用されています。はがしやすさはもちろん、耐熱性や寸法安定性も重要です。



|| 特殊紙

豊富なカラーバリエーションや、一味違った風合いが持ち味のカラー封筒用紙をはじめとして、ホットドッグなどの食品包装用の耐油紙、クリーニングタグ用の耐洗紙、半導体工場などで使われるクリーンルーム用の無塵紙、自己消火機能を持った不燃紙など、実に多彩な特殊機能紙を各種開発し、提案しています。



リンテックグループの概要

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声にこたえ、よりよい社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



- 環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001 認証取得拠点

■ リンテック株式会社

- 本社●
- 飯田橋オフィス

■ (支店)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北陸支店
- 静岡支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 広島支店
- 四国支店
- 福岡支店
- 熊本事務所

■ (工場・研究所)

- 吾妻工場●
- 熊谷工場●
- 千葉工場●
- 龍野工場●
- 新宮事業所●*1
- 新宮事業所龍野事務所●*1
- 小松島工場●
- 三島工場●*2
- 土居加工工場●*2
- 新居浜加工所●
- 伊奈テクノロジーセンター●
- 研究所●

■ リンテックコマース株式会社

■ リンテックサインシステム株式会社

■ 富士ライト株式会社

■ リンテックサービス株式会社

■ リンテックカスタマーサービス株式会社

■ プリンテック株式会社

■ 東京リンテック加工株式会社●

■ 大阪リンテック加工株式会社

*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

- 琳得科(蘇州)科技有限公司●
 - 北京分公司
 - 上海分公司
 - 深圳分公司
- 琳得科(天津)実業有限公司
- 普林特科(天津)標籤有限公司●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(上海)社
 - 蘇州分公司
 - 天津分公司
 - 深圳分公司
 - 成都分公司
- マディコ社
 - 蘇州事務所
- リンテック株式会社
 - 上海事務所
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社
- リンテック・ハイテック台湾社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社●
 - 新竹事務所
- リンテック・コリア社●
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(韓国)社
- リンテック・インドネシア社●
- リンテック・シンガポール社●
 - ハノイ事務所
- リンテック・ジャカルタ社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(フィリピン)社
- リンテック・フィリピン(ペザ)社
- リンテック・タイランド社
- リンテック・バンコク社
- リンテック・ベトナム社
- リンテック・ハノイ・ベトナム社
- リンテック・インドア社
- リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社●
- リンテック・インダストリーズ(サラワク)社●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(マレーシア)社
 - クアラルンプール事務所
 - ペナン事務所

ASEAN地域統括会社の設立(2015年1月)

ASEANおよびインドでの包括的な事業戦略、そして事業強化・拡大を重要なテーマとし、以前から生産・販売拠点の拡充に取り組んできました。持続的な成長を遂げるため、2015年1月にASEAN地域統括会社としてリンテック・アジアパシフィック社(LAP社)*を設立しました。現地に統括拠点を置くことで、経営判断のスピードアップを図り、生産体制の最適化や原材料調達効率化、同地域での市場シェアの拡大を目指しています。また、これまで各販売拠点が個別に行っていた財務・人事についても管理業務を集約することで、各拠点における営業や市場調査などの強化を図ります。

* LAP社 : LINTEC ASIA PACIFIC REGIONAL HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED



|| アメリカ

- リンテック USA ホールディング社
- マディコ社●
 - マディコ・ウインドーフィルムズ部門
 - マディコウエスト事務所
 - マディコサウスウエスト事務所
 - マディコミッドアメリカ事務所
 - マディコサウステキサス事務所
 - マディコサウスイースト事務所
 - マディコフロリダ事務所
 - マディコノースイースト事務所
- リンテック・オブ・アメリカ社
 - シカゴ事務所
 - ダラス事務所
 - ナノサイエンス&テクノロジーセンター

米国テキサス州に研究開発拠点を開設（2014年2月）

当社グループとテキサス大学ダラス校(米国テキサス州)が共同で、カーボンナノチューブ(筒状炭素分子)*の特性を損なうことなく薄いシート状に加工する新規技術の開発を進めてきました。その実用化に向け、テキサス州ダラス近郊のリチャードソンにリンテック・オブ・アメリカ社の研究拠点となるナノサイエンス&テクノロジーセンター（NSTC）を設立し、量産技術の確立に着手しています。今後、NSTCと研究開発本部が連携し、最先端分野への展開を目指し、新たな市場開拓と製品開発を進めていきます。

* カーボンナノチューブ（筒状炭素分子）：直径がナノメートルレベル、長さがマイクロメートルレベルの筒状の炭素材料。軽量ながら曲げや引っ張りに非常に強く、導電性、熱伝導性などにも優れている。



|| ヨーロッパ

- リンテック・ヨーロッパ社
 - ハンガリー事務所
- リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ (ヨーロッパ)社
 - イスラエル事務所

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

至誠のために

リンテックグループの社是「至誠と創造」が示すように、「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めます。

コーポレート・ガバナンス

リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値のさらなる向上を目指します。

|| コーポレート・ガバナンス体制

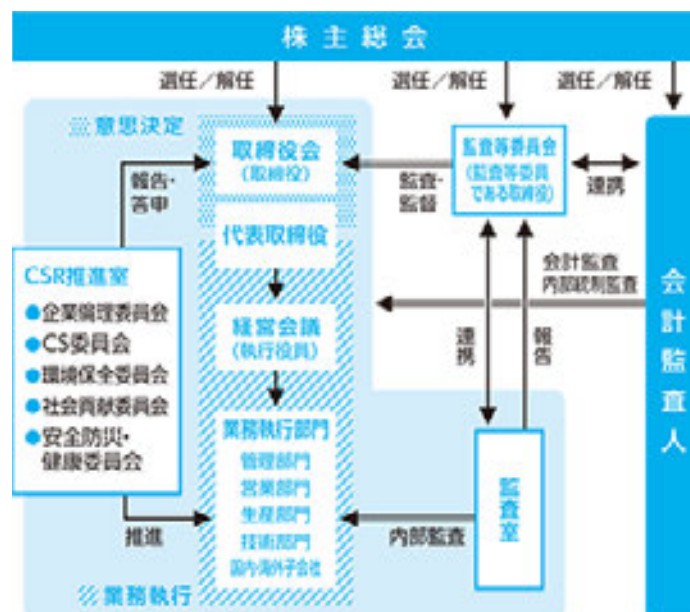
リンテックでは、取締役の任期を1年とすることで、その責任を明確にしているほか、執行役員制度を導入し、意思決定と業務執行を分離して取締役会の活性化と意思決定の迅速化を通して経営の効率化を図ってきました。

また、2015年6月24日開催の定時株主総会において、取締役会の監督機能を強化するための施策として、監査等委員会設置会社*に移行しました。

監査等委員会は社内1人、社外3人の取締役監査等委員から構成され、新役員体制において社外取締役は4人となりました。

これにより、コーポレート・ガバナンスのより一層の充実と経営のさらなる効率化を目指しています。

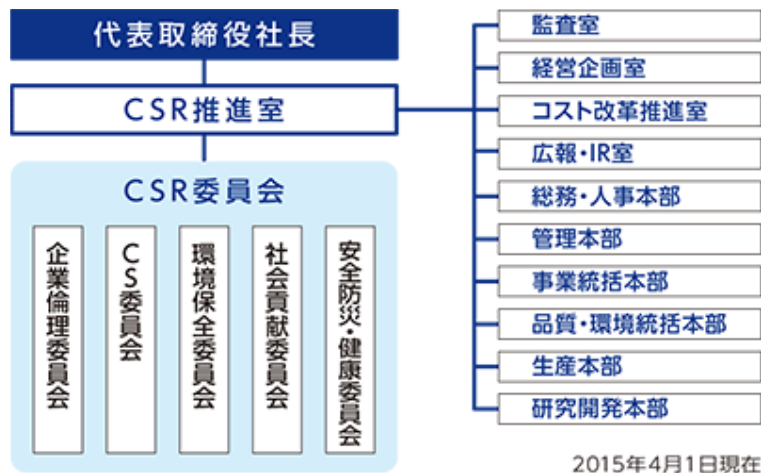
コーポレート・ガバナンス体制



* 監査等委員会設置会社：監査等委員として選任された取締役3人以上（過半数は社外取締役）で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。

リンテックグループでは、CSRの基本姿勢に沿ってCSR活動を推進しています。

CSR推進室は、社長直轄の組織とし、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR委員会の活動支援を行っています。委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



Voice グローバルガバナンスの構築

リンテックグループでは、グローバルガバナンス体制の強化・確立を図るため、関係会社業務規程を定めています。また、国内外グループ会社の管理体制を強化する目的から、グループ各社ごとに主管部署を定め運営全般に関する支援・指導を実施しています。内部監査部門と監査等委員が連携して、全ての国内外グループ会社の実地監査を行い、内部統制やコンプライアンスの課題抽出と是正を行い、グローバルガバナンスの強化を進めています。



本社 取締役 監査等委員
山本 敏夫

コンプライアンス

リンテックグループでは社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2015年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました（回答率：2015年79.1%、2014年85.7%、2013年89.3%、2012年68.6%）。★

また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しており、これらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。



コンプライアンス教育

★マークについては[こちら](#)

|| 人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2015年2～3月に、全グループ会社を対象とした、人権および労働に関する実態調査を行いました。★

法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成の調査により、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては[こちら](#)

|| 独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、新たに作成した「独占禁止法遵守マニュアル」を2013年10月に役員と管理職および事業統括本部所属の従業員に配付し、営業職を対象に飯田橋オフィスにて講習会を4回実施しました(計約190人参加)。また、講習会後のアンケートに記載されていた質問には、総務・法務部から個別に回答し、理解を促しました。

2013年12月にはリーガルニュース「独占禁止法」を発行。さらに2014年1月には独占禁止法に関するe-ラーニングを実施するなど、従業員への啓発活動を行っています。

また、2014年4月に配布した行動規範ガイドラインにも「独占禁止法に関するガイドライン」を定めています。

|| 行動規範ガイドラインによる意識啓発

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子「行動規範ガイドライン」を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。

2014年4月には内容を見直した行動規範ガイドラインを発行し、これを活用して国内外でCSR勉強会を開催しました。国内外で延べ98回開催し、延べ3,210人が参加しました。

▶ [リンテックグループ行動規範](#)



CSR勉強会参加者(国内外) 延べ

3,210人

|| りんりかわら版による倫理観の醸成

リンテックでは2006年より、行動規範の遵守および倫理観の醸成を目的に、誰でも分かりやすい川柳に解説をつけた「りんりかわら版」をイントラネットに掲出しています。2015年4月1日には通算で200句に達しました。

また、これらの川柳をまとめた小冊子「りんりかわら版守ってマスカ!？」を年1回発行しており、2015年3月にVol.8を発行。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。

▶ 「りんりかわら版 守ってマスカ!？」 Vol.7一部ご紹介 [PDF : 2,247KB] 



リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生の防止に努めています。

四半期に1回のリスク洗い出しにより、社内状況の把握を行い、リスク管理能力の向上に努めています。

|| 全社BCMS*1の構築について

リンテックと東京リンテック加工（株）では、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、製品の供給を継続し早期に事業を再開できるよう、BCP*2の策定に取り組んでいます。2014年3月11日にはBCMSの国際標準規格である「ISO22301：2012」*3の認証を取得しました。

全ての従業員にBCMSを浸透させるために、BCMS勉強会の開催や、各拠点での演習実施の活性化と充実を図っています。自発的に改善を繰り返し、実践できる体制の強化を目指しています。

*1 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメント）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

*2 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*3 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックWEBなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

|| 情報セキュリティー管理

リンテックでは「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。2014年11月には、企業倫理委員会が情報セキュリティーに関する「自己監査」を実施しました。その結果、全国平均で5点満点中、4.6点という高い水準であり、情報セキュリティー管理規程に定められた内容が、各部署において正しく理解されていることを確認しました。

|| ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。迅速な相談と調査ができるよう、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えました。また、行動規範ガイドラインにヘルプラインを掲出するなどの社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決を図っています。

2015年4月からは、対象を海外グループ会社にまで広げたグローバル・ヘルプライン制度を設け、英語での通報も可能としています。

お客様のために

お客様からの期待に応えるために、製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービス向上を推進しています。

品質保証

リンテックグループの“ものづくり”は、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが品質・環境・安全を常に意識して活動しています。こうしてつくられた製品を通じて、お客様へ“安心”と“信頼”を届けることを目指し、“ものづくり”への挑戦を続けています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

品質保証体制

リンテックグループでは国際標準規格であるISO9001*の認証取得を基にした品質保証体制を構築しており、新たな拠点での認証取得や拡大・統合認証に積極的に取り組んでいます。2014年度は新たな拠点として、リンテック・タイランド社が加わりました。また、国内拠点では産業工材事業部門へ平塚事業所の統合、海外拠点ではオプティカル材事業部門にリンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社とリンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社の統合とマディコ社（アメリカ）セント・ピーターズバーグ工場の追加を通じて、グローバルな管理体制の構築・展開を進めています。

ISO9001認証取得状況★

	2012年度	2013年度	2014年度
認証取得数	22	21	20

* ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

★マークについては[こちら](#)

Voice 品質向上の成果発表で高評価

お取引先からの依頼を受け、サプライヤーとしてQCC活動*に参加しました。最終活動発表会では、全51チームから選抜された当社を含む9チームが発表。4位という高評価を頂くことができました。

今回の取り組みを通じて学んだことを今後も継続的に業務に生かし、一層の品質向上に努めていきます。

* QCC活動：Quality Control Circle活動。小グループに分かれて、継続的に品質管理の課題解決に取り組み、適正保持・効率化・改善などの対策を検討・実践する活動。



リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社 製造課 副課長
林 宜慶
（リン・イーチン）

製品の情報開示

お客様に安心して製品を使っていただけるように、リンテックグループではさまざまな方法で製品情報の開示を行っています。安全データシート（SDS）の発行や化学物質調査の回答もそれらの一環です。幅広い分野で使用されている当社製品に求められる情報は多岐にわたり、それらを分かりやすい情報として提供することがCS向上につながると考えています。例えば粘着製品では、品種ごとに特徴や構成、物性データなどを記載した技術資料を準備しています。これからも喜んでいただけるリンテック製品を目指して、さまざまな取り組みを進めていきます。

品質教育

リンテックグループでは、お客様に満足いただける高品質な“ものづくり”のために、ISO規格に基づいたQMS（品質マネジメントシステム）、EMS（環境マネジメントシステム）、BCMS（事業継続マネジメントシステム）を取り入れています。各規格の円滑な運用には全従業員の理解と意識向上が不可欠です。そのために外部講習や通信教育への参加、e-ラーニングを含めた社内講習、OJT教育などに力を入れています。2014年度は12講座（OJT教育除く）を実施し、延べ3,784人が受講しました。

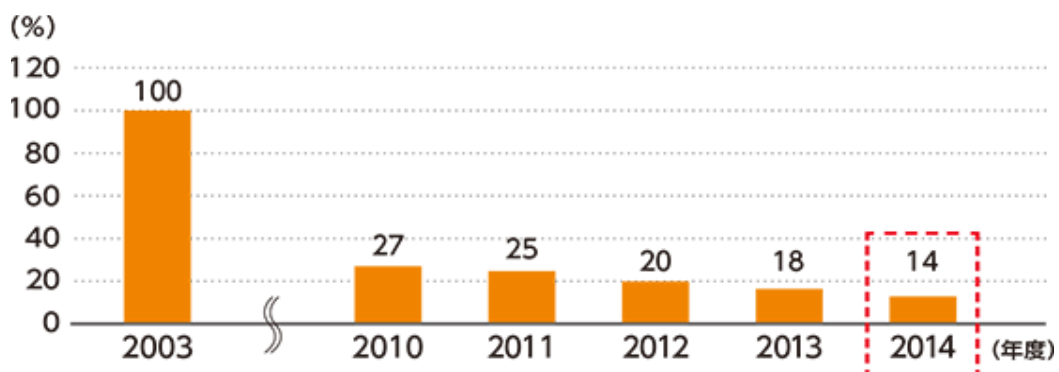
品質教育講座受講者数 延べ

3,784人

品質事故の予防

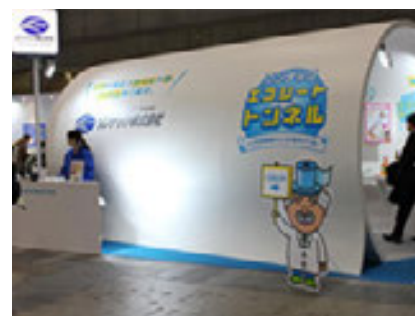
リンテックではISO9001を基本としたQMS活動の中で、品質事故の撲滅に努めています。品質事故が発生した際にスピーディな情報の伝達を行うための管理システムを構築しています。情報は関連拠点にいち早く伝達され、速やかな対応が取れる体制を整備しています。情報を蓄積、共有化することで再発防止策へとつなげています。

品質事故件数比率（2003年度の件数を100%とした比率）



|| 国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2014年度は、計23回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



エコプロダクト 2014に出展

2014年度に出展した主な展示会

国内	海外
<ul style="list-style-type: none"> ■ 第5回 高機能フィルム技術展 ■ SIGN EXPO 2014 ■ ラベルフォーラムジャパン2014 ■ サイン&ディスプレイショウ2014 ■ エコプロダクト2014 ■ 第16回半導体パッケージング技術展 	<ul style="list-style-type: none"> ■ AMITEC (ドイツ・ライプチヒ) ■ Display Week 2014 (アメリカ・サンディエゴ) ■ Philippines Semiconductor and Electronics Convention and Exhibition 2014 (フィリピン・パサイ) ■ Display Taiwan 2014 (台湾・台北) ■ SEMICON West 2014 (アメリカ・サンフランシスコ) ■ All China Leather Exhibition 2014 (中国・上海) ■ SEMICON Taiwan2014 (台湾・台北) ■ China (Shenzhen) International Touchscreen Exhibition 2014(中国・深圳) ■ SINO LABEL 2015 (中国・上海) ■ SEMICON China 2014 (中国・上海)

* FIMEC:Feira Internacional de Couros, Quimicos, Componentes e Acessorios, Equipamentos e Maquinas para Calçados e Curtumes(国際皮革・加工機器見本市)の略称。

お取引先との協働

リンテックグループでは、お取引先との共存共栄を目指して、公正で透明性の高い取引に努めています。

公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針とし、関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。また、お取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定に当たっては広く門戸を開き、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービス・環境保全・CSRの取り組みも含め、適正な評価を実施しています。

CSR調達

リンテックグループではお取引先に「リンテック原材料調達基本方針」の理解を深めていただくとともに、さまざまな機会を通して人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理などのあらゆる観点からCSRの徹底をお願いしています。2014年度もお取引先アンケートを実施し、原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位50社★にアンケートを依頼し、その全てのお取引先から回答を頂きました。アンケート結果は供給者評価にも活用し、必要な場合は改善のお願いなどを行っています。2014年度はCSRに関する項目で改善のお願いを行ったお取引先はありませんでした。

お取引先数

2,799社

今後もアンケートによる現状把握と結果を活用し、調達活動を行っていきます。

★マークについては[こちら](#)

グリーン調達

リンテックグループは、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するため「リンテックグリーン調達方針」に基づき、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。実施にはお取引先の理解が不可欠であり、お取引先での環境保全活動や化学物質管理の推進が重要です。新たな材料を調達する際はもちろん、新たな規制が発生した場合にも該当物質の含有調査をお願いしています。2014年度はREACH規則*の含有調査で、原材料を対象に延べ約12,000品種を対象に調査活動を行いました。引き続き迅速、正確な調査のために、お取引先とのコミュニケーションの強化を図り、グリーン調達を推進していきます。

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

- ▶ [リンテックグリーン調達方針](#)
- ▶ [リンテック木材パルプ調達方針](#)
- ▶ [リンテック原材料調達基本方針](#)

紛争鉱物*への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識し、原材料における「紛争鉱物」の使用状況を調査し、原材料としてそれらを使用していないことを確認しています。今後も「紛争鉱物」を不使用とする調達管理を行っていきます。

* 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物は、タンタル、錫、タングステン、金。

Voice サプライヤーとの連携強化のために

マディコ社では、サプライヤーとのさらなる連携強化のためサプライヤーズデーを開催しています。3回目となる2014年5月は、42社55人に参加いただき、当社の経営戦略や生産システム、品質管理などについて説明しました。

また、1年間の功績をたたえたサプライヤー賞の受賞式も行いました。今後もサプライヤーの皆さんとの連携をより一層強化し、製品とサービスの質の向上に努めていきます。



マディコ社（アメリカ）オペレーション営業部 シニア営業管理担当

Doreen Sabatino

（ドリーン・サバティノー）

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給先であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2014年度は、全ての製品を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を開始しました。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*発生時に対応する組織や手順の整備について、対応の協力要請を行っています。

* インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

|| ITCサプライヤーズデイの開催

伊奈テクノロジーセンター(ITC)では、お取引先とのコミュニケーション活動の一環として、年1回お取引先に向けて報告会を開催し、相互理解を図っています。2014年11月は、29社62人に参加いただき、リンテックの業績、開発部・製造部・品質保証部・業務管理部の現状報告と下期に向けた取り組み方針、CSRへの取り組み状況などを説明しました。



ITCサプライヤーズデイ



従業員とともに(人権・雇用)

リンテックグループでは、全従業員が明るく活力を持って仕事ができるように、さまざまな取り組みを行っています。

人権と多様性の尊重

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ）を尊重*しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

* 多様性（ダイバーシティ）の尊重：人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

雇用状況★



★マークについては[こちら](#)

人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」並びに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、2015年度の新入社員32人に対し「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行うなど、人権教育も実施しています。



新入社員研修での講義

Voice 働きやすく、働きがいのある職場環境のために

育児休業から復帰後、「女性活躍促進検討委員会」事務局の一員として活動しています。女性が活躍できるだけでなく、さまざまなライフスタイルや考え方の従業員が、能力を最大限に発揮できる職場づくりに向けた初めの一歩です。今後、60歳以上の方、障がいのある方、さまざまな国の方など、全ての従業員にとって「より働きやすく、働きがいのある職場環境」を目指し、積極的に意見を出していきたいと思えます。



本社 人事部 主任
村上 真弓

人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

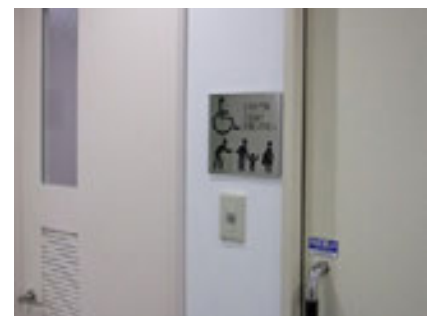
障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2014年度の通期雇用率は1.78%となり、法定雇用率である2.0%を下回りました。

なお、2015年4月1日より人事部内に「業務支援室」を新設、各部署から依頼された業務を行える環境を整え、障がい者を新たに雇用して、各部署の業務支援を行う取り組みをスタートしました。

障がい者雇用率

	2012年度	2013年度	2014年度
雇用人数(人)	46	46	45
通期雇用率(%)	1.72	1.79	1.77



アクセシビリティ*が向上した本社新2号館

* アクセシビリティ：高齢者・障がい者を含む誰もが、さまざまな製品・建物・サービスなどを支障なく利用できること。

|| ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。

ジョブリターン制度利用者数

	2012年度	2013年度	2014年度
雇用人数(人)	0	0	0

|| 高年齢者雇用

リンテックでは高年齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2014年度は定年退職者37人のうち22人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。

高齢者雇用者数

(人)

	2012年度	2013年度	2014年度
定年退職者数	41	23	37
再雇用者数 (割合)	28(68%)	15(65%)	22(59%)



現場で技術指導する再雇用の社員(左)

|| 労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的に行われる協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。

リンテックフォーレストの状況

	2012年度	2013年度	2014年度
フォーレスト 会員数(人)	2,121	2,086	2,055
平均年齢(歳)	37.8	38.3	38.5
平均勤続年数	16年	16年6か月	16年8か月

※ 各年度末現在

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気やけがをした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地域貢献活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入しています。育児休業制度の対象を満3歳未満から小学校未就学児までに、介護休業制度を93日から2年(730日)にするなど、勤務時間の短縮措置にも取り組んでいます。

また、2015年4月1日から、次世代育成支援対策推進法*に基づいた行動計画を策定し、活動を推進しています。今後も安心して仕事に取り組める体制づくりに努めます。

* 次世代育成支援対策推進法：日本の急速な少子化の進行や家庭および地域を取り巻く環境の変化にかんがみ、次世代育成支援対策を推進し、次代の社会を担う子供が健やかに生まれ、育成される環境整備を目的とした法律。

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

目標①	両立支援の就労整備と、利用しやすい環境整備に取り組みます
対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 育児中の社員への支援制度の拡充について、検討・実施します。 ■ 本人にとっても職場にとっても職場復帰しやすい環境づくりのため、上長との面談の機会を設けます。 ■ サポート制度活用ブックや社内イントラネットを通じ、継続的な制度内容の周知を図ります。
目標②	さまざまなライフスタイルや考え方の従業員に対応できる職場づくりを進めます
対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社内アンケート（育児、介護、勤務体系等）を実施し、現状についての把握と具体的な進め方について検討します。 ■ 年次有給休暇の取得促進に向け、アニバーサリー休暇を含む計画年休を導入します。 ■ ダイバーシティ研修等を実施し、意識改革に向けた啓もう活動を行います。

社員支援の制度

介護支援

- 介護休業制度(通算93日間以内)

- 介護休暇制度(10日/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：要介護状態にある対象家族の介護そのほかの世話をを行う社員

子育て支援

- 出産休暇制度(通算14週間)

対象：出産する社員

- 育児休業制度(対象期間内で社員が申し出た期間)

対象：子が満1歳に達する日(事情により1歳6か月に達する日)までの間で、申し出をした社員

- 子の看護休暇制度(10日/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：小学校就学前の子の看護または子に予防接種・健康診断を受けさせるために申し出をした社員

- 時短・時差勤務制度

対象：小学校就学前の子を養育し、申し出をした社員

ボランティア支援

- 社会貢献休暇制度(5日間/年度)

* 半日単位の取得もできるものとする

対象：災害時の救援活動や地元の消防活動、幼稚園・小・中学校の活動、地域の町おこし活動などに参加する社員

各制度の利用者数

(人)

制度	2012年度	2013年度	2014年度★
介護休業制度	0	1	1
介護休暇制度	2	3	1
保存休暇制度	51	61	65
出産休暇制度	16	16	14
育児休業制度	19	26	25
子の看護休暇制度	10	11	10
時短・時差勤務制度	10	21	28
社会貢献休暇制度	26(延べ54日)	26(延べ50日)	26(延べ47日)

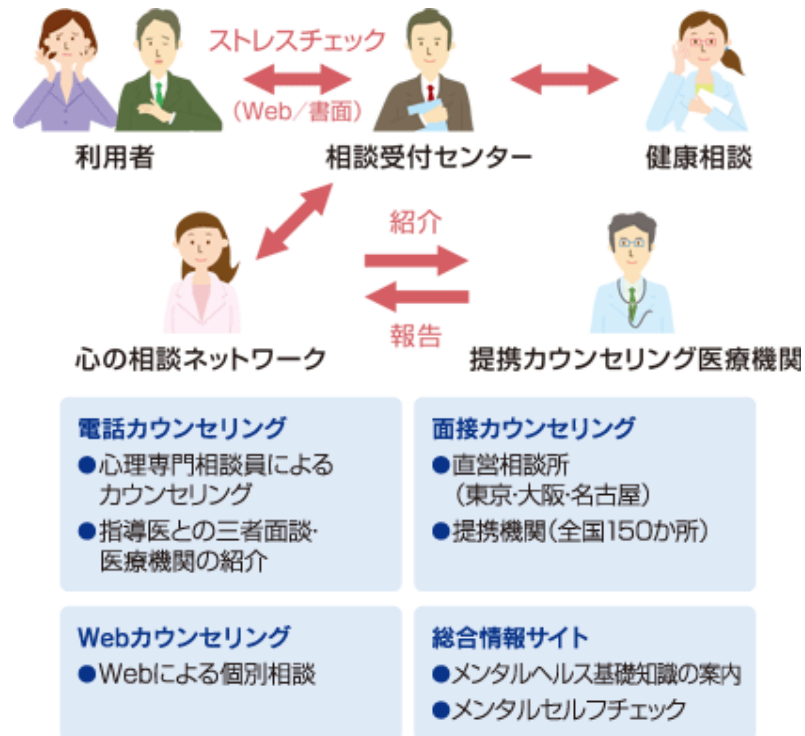
★マークについては[こちら](#)

|| メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2014年度はグループ全体で3,341人を対象に実施し、受診率は96.38%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律・家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

* 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

予防型EAPシステムの概要



|| 長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率良く計画的に進めるための仕組みを導入しています。こまかな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。また、「心の健康診断」を年1回受診することにより、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。

Voice 制度と周囲の支援で、仕事と家庭を両立

私は1時間の時短勤務制度を利用し、2歳の男の子を育てています。両立は大変なこともあります。復帰後、子供の体調不良で急な休みが必要なときなど、育児に関するサポート制度をいくつか利用しました。会社の制度充実に加えて、両立に理解を示しサポートしてくれる上司・同僚・家族にはとても感謝しています。まわりの理解があるからこそ、続けられると実感しています。



飯田橋オフィス 事業統括管理
室
海老原 美香

従業員とともに(人材育成)

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

全社階層別研修

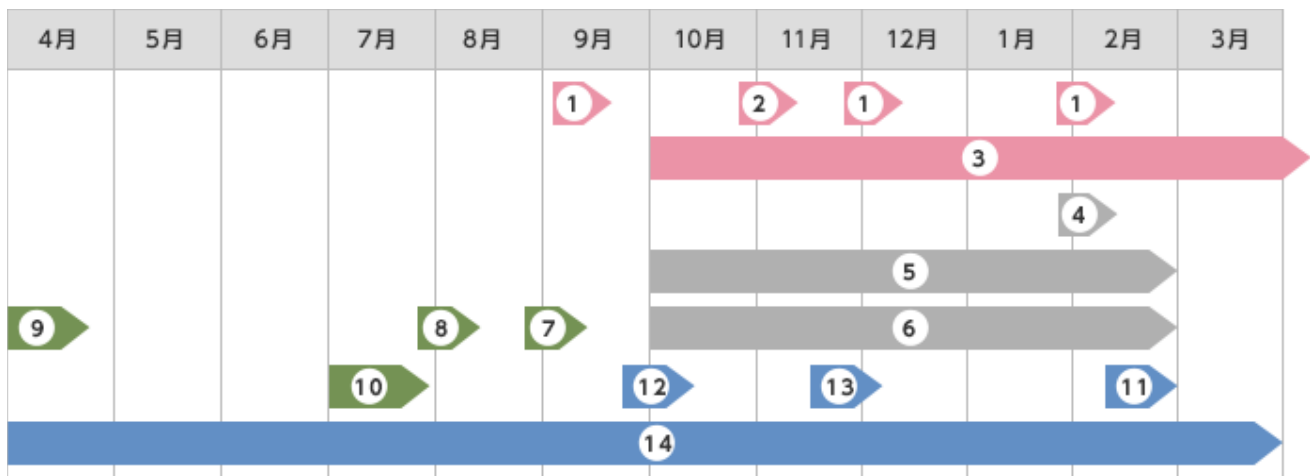
リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修は、社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援しています。

全社階層別研修参加者 延べ★

527人

★マークについては[こちら](#)

2014年度 階層別研修



2014年度 研修内容と受講者数

研修内容	受講者数(人) (対象者)
①部長職研修 6か月の期間をかけ、経営的視点の熟成を意図とした研修を進め、成果発表を行う。	14 (8等級部長・副部長)
②新任管理職研修(集合研修) 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	29 (新任課長)

<p>③新任管理職研修(通信研修) 管理職として必要な経営学分野の基本知識、マネジメントの知識、スキルを習得する。</p>	<p>29 (新任課長)</p>
<p>④新任係長研修(集合研修) 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。</p>	<p>44 (新任係長)</p>
<p>⑤5等級昇格者研修(通信研修) グループリーダーとしての職場の問題解決、部下の指導・育成、生き生きとした職場づくりなどについて体系的に習得する。</p>	<p>134 (5等級昇格者)</p>
<p>⑥4等級昇格者研修(通信研修) 総合的なビジネススキルの習得を目標に、科目選択で習得する。</p>	<p>100 (4等級昇格者)</p>
<p>⑦3年目フォロー研修(集合研修) 2年目を振り返り、現状をグループで討議することにより、今後の目標について明確にする。</p>	<p>46 (新卒3年目)</p>
<p>⑧2年目フォロー研修(集合研修) 1年間を振り返り自分の成長を確認し、これからの取り組みを自己演習とグループ学習を通じて明確にする。</p>	<p>36 (新卒2年目)</p>
<p>⑨新入社員研修(集合研修) ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論などを理解する。</p>	<p>34 (新入社員)</p>
<p>⑩内定者研修(集合研修) 入社までの時間でやっておくべきこと、社会人となるに当たっての心構えを習得する。</p>	<p>29 (内定者)</p>
<p>⑪ブラザー・シスター研修(集合研修) 新入社員や若手社員の指導をする先輩社員の育成を目的に、職場指導の重要性を認識し、指導に当たり必要な知識の習得および新入社員や若手社員への動機づけの手法を習得する。</p>	<p>27 (新入社員や若手社員を指導する先輩社員)</p>
<p>⑫女性活躍促進・ダイバーシティマネジメント研修(集合研修) 女性活躍・ダイバーシティマネジメントの基本的な考え方、管理職としての役割および自社の取り組みを理解し、女性活躍に向けた気付きを得る。</p>	<p>28 (管理職)</p>
<p>⑬女性が活躍するための意識付け・キャリアアップ研修 女性活躍促進の取り組みを正しく理解し、当事者意識を持つとともに、働きやすい職場づくりや自分自身のこれからの働き方について考える。</p>	<p>35 (女性社員)</p>
<p>⑭語学研修(自薦・本部推薦) グローバル化が進む中、海外赴任候補者のすそを広げることと、業務上必要と思われる語学での遂行能力を上げることを目的とする。</p>	<p>9 (自薦のうえ選考)</p>

|| CSR勉強会／情報セキュリティー教育

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR勉強会を適時実施しています。2014年度は千葉工場(参加者：60人)、小松島工場(参加者：68人)、三島工場(参加者：50人)、土居加工工場(参加者：43人)、龍野工場(参加者：87人)、新宮事業所(参加者：98人)、大阪支店(参加者：82人)、名古屋支店(参加者：30人)、本社(参加者：385人)などにおいて、延べ2,446人が参加したコンプライアンスと情報セキュリティー教育を併せて実施しました。また、海外グループ会社でもCSR勉強会を開催し、延べ764人が参加しました。

|| 環境教育

リンテックと東京リンテック加工(株)ではISO14001の自覚教育としてe-ラーニングを実施しており、2014年度はエネルギー関係と製品含有化学物質の管理を取り上げ、環境に対する取り組みへの理解を深めました。ISO14001の自覚教育、内部監査員養成教育、生物多様性出前講座などのほか、お取引先への啓発も行っています。また、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」では環境法令のトピックス、用語解説、ISO14001の活動報告などを発信し、一人ひとりの環境に対する意識の向上を図っています。

2014年度 環境教育延べ受講者数

対象	内容	延べ受講者数 (人)
本社	ISO14001自覚教育(新入社員、異動者)、ISO部門内自覚教育、生物多様性(出前講座)	301
吾妻工場	ISO14001自覚教育(階層教育、化学物質管理含)、緊急事態対応訓練(緊急連絡網、薬品漏洩時の対応)、省エネ活動に関する周知、新入社員教育、内部監査員養成	1,009
熊谷工場 (リンテックサービス)	ISO14001自覚教育、訓練、化学物質教育、業者啓蒙、生物多様性(出前講座)など	443
研究所	ISO14001自覚教育(新入社員、異動者)、廃棄物関連教育(新入社員、異動者)、生物多様性(出前講座)、化学物質管理教育(新入社員)、ISO14001内部監査員養成教育	661
東京リンテック加工	ISO14001自覚教育、産業廃棄物収集運搬教育、化学物質管理教育、生物多様性・3R、省エネ、ゴミ分別	368
伊奈テクノロジーセンター	ISO14001自覚教育、生物多様性(自然観察)	171
千葉工場	ISO14001自覚教育、内部監査員教育、特定業務従事者教育、環境設備教育、環境関連法教育、生物多様性(出前講座、セミナー)、CSR勉強会	326
龍野工場	ISO14001自覚教育、新入社員・転入者教育・内部配転者・新規EMS責任者、特定業務内部教育(保安教育・緊急事態訓練など)、特定業務・資格外部講習、生物多様性(出前講座) ISO14001 自覚教育	455
新宮事業所	ISO14001自覚教育、緊急事態対応訓練、生物多様性(出前講座、団体活動)	349

新居浜加工所	ISO14001自覚教育、危険物・廃棄物取扱従事者教育、内部監査員教育、内部監査員力量確認、相互監査員教育、外部講習：エネルギー管理員関連、生物多様性（出前講座、研修会、展示会）	87
三島工場 (協力会社含む)	ISO14001自覚教育（異動者）、生物多様性（出前講座）	503
小松島工場	ISO14001自覚教育（化学物質教育を含む）、生物多様性（清掃活動、緑化活動、出前講座）	297

|| リンテック環境・安全インフォメーション

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001(活動実績/サイト事務局紹介)、化学物質管理関連(REACH規則*や規制情報など)、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2014年度は12回発信しており、今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。



リンテック環境・安全インフォメーション

技術に親しむ会

研究開発部門、生産部門および営業部門との技術交流を目的に、2014年11月「新製品とそれを支える生産技術」をテーマに、第65回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者58人を含めた総勢約200人が参加しました。研究開発担当者から、最新の環境および効率化への製品開発、生産技術の取り組みが発表され、活発な意見交換とともに技術情報の共有を図りました。



技術に親しむ会

自発的教育制度

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	受講者数(人)	修了率(%)
2012	276	59
2013	254	59
2014	200	64

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦のうえ選定会議により決定されます。2014年度は10人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100～150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

従業員とのコミュニケーション

コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語（簡体字・繁体字）版でそれぞれ年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配付しています。また、マディコ社でも独自の社内報をPDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」



マディコ社「INSIDE THE FILM」



コミュニケーションマガジン「LINTEC」英語版

リンテックでは新入社員研修で、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの八尋英昭事務局長に「国連グローバル・コンパクトとCSR」について講義をしていただきました。また、CSR勉強会を国内拠点と国内外グループ会社で開催し、延べ3,210人が参加しました。



新入社員研修での講義



CSRレポートは日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語の7言語で発行

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

従業員とともに(安全防災)

リンテックグループで働く人々が、安全で安心して働けるよう、さまざまな取り組みを行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）*に準拠して継続運用しています。

全社的な活動として安全相互監査計画や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場での活動として年間安全衛生計画をそれぞれ策定し、OSHMSによるPDCAサイクルを回しています。また、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーによる安全検討委員会では、全社的な安全ルールを検討しています。今後も無事故・無災害に向けて活動を推進していきます。

* OSHMS:Occupational Safety and Health Management System(労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

- ▶ [リンテック労働安全衛生方針](#)
- ▶ [リンテック労働安全衛生マニュアルの概要](#)

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。

2014年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行い、海外グループ会社2社（リンテック・インドネシア社、マディコ社）の着火事故予防パトロールも実施しました。さらに、全事業所や国内・海外グループ会社および役員にも安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- 安全教育
- 訓練計画
- 点検・測定
- 作業環境測定
- 健康診断
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

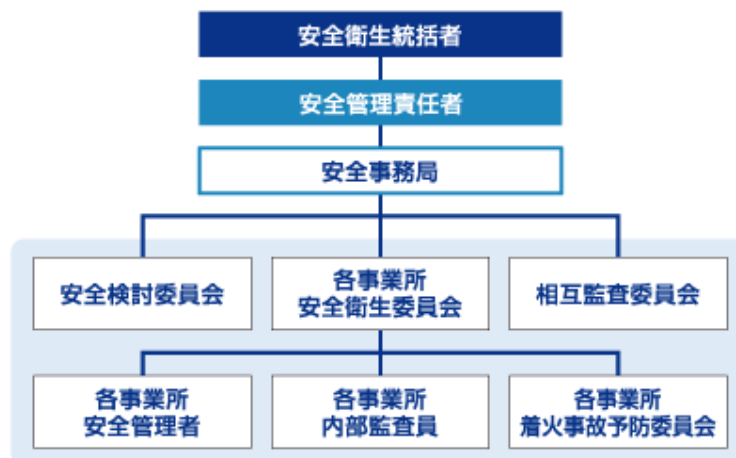
安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会で協議しています。2014年度は災害速報や委員会議事録の配信方法を見直し、日本語版に加えて英語版でも配信を行い、グループ全体での安全管理を推進しています。

職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	<ul style="list-style-type: none">■ 計画の実施■ 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	<ul style="list-style-type: none">■ 健康や安全運転、防災活動などについて協議

リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図(本社・営業部門を除く)



休業災害

リンテックグループでは、2014年度の休業を伴う労働災害（休業災害）は2件発生し、休業日数は累計81日でした。件数、休業日数とも2年連続で減少していますが、勤続年数の少ない作業者による休業災害発生の傾向は変わらず、また、回転体による災害が発生しました。作業内容に則した安全ルールの明確化をさらに進め、労働災害ゼロを目指して取り組んでいきます。

（海外グループ会社を除く）

休業災害の発生状況

年度	2012年度	2013年度	2014年度
休業災害発生件数(件)	6	4	8
休業日数(日)	361	245	81
発生場所	リンテック、 協力会社	リンテック、 協力会社	リンテック

無災害に向けて

リンテックグループでは、無災害に向けた表彰制度を設けています。新宮事業所（新居浜加工所含む）は、2014年9月2日に連続完全無災害時間*1 150万時間を達成し、2010年12月24日～2015年3月31日まで完全無災害1,728,520時間を継続中です。毎月の全体安全パトロールおよび各課による5S*2を含めた安全パトロールを充実させ、指摘については迅速な改善に努めています。またKYT活動*3で、他工場の事例を基にした災害防止を図ったことが、安全意識向上と成果につながりました。

今後も全従業員の協力により安全な作業環境を整えるために、五感を働かせた行動と職場内でのリスクアセスメント活動による危険個所の洗い出し、リスク評価を行い、さらなる連続完全無災害時間継続に向け取り組みます。

（海外グループ会社を除く）

★マークについては[こちら](#)

*1 連続完全無災害時間：各事業所で常時働いているリンテックおよび協力会社の従業員を対象にした、労働災害（不休災害、休業災害、労災該当の通勤途上災害）がない労働時間の総累計。

*2 5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけの頭文字の5つの「S」を取ったスローガン。職場環境の維持や改善に用いられる。

*3 KYT活動：危険予知訓練。事故や災害を未然に防ぐことを目的に、小グループでその作業に潜む危険を予想し、指摘し合う訓練。



社内表彰を受ける新宮事業所

2010年12月24日～2015年3月31日
連続完全無災害継続(新宮事業所)★

1,728,520 時間

2014年度 連続完全無災害達成時間の状況
(2014年4月1日～2015年3月31日)

達成年月		事業所	達成時間 (時間)
2014年	4月7日	吾妻工場	100万
	4月18日	研究所	150万
	5月2日	三島工場	50万
	7月29日	千葉工場	100万
	9月2日	新宮事業所	150万
	10月6日	研究所	175万
	12月4日	三島工場	100万
2015年	1月15日	熊谷工場	50万
	3月20日	龍野工場	50万
	3月25日	三島工場	125万
	3月26日	研究所	200万
	3月26日	吾妻工場	50万
	3月31日	新宮事業所・東京リンテック 加工 伊奈テクノロジーセンター	1年間無災害

|| 定期安全協議会の開催(熊谷工場)

熊谷工場では構内工事における工事協力会社の災害防止を目的に、年3回の定期安全協議会を開催しています。工事都度での安全に関する事前打ち合わせとともに、これらを補うため4、7、12月に社内外から185人ほどの参加者と(1)安全作業ルールの徹底、(2)他社災害情報の共有、(3)現場の不安全情報など、安全に関する幅広い意見交換を行う場を設け、ルールや管理形態の周知と見直し、現場の改善などにつなげる活動を行っています。参加くださった全ての会社には安全誓約書を提出していただき、構内作業における安全作業の徹底をお願いしています。



熊谷工場での安全協議会

2014年度 工事に関する安全協議会

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年3回	安全教育	185
小松島工場	年12回		96
三島工場・土居加工工場	年2回		50
新宮事業所	年1回		41
計			372

各生産拠点でトップパトロールを実施

西尾社長が国内外の生産拠点・研究所のトップパトロールを行いました。各拠点での“安全最優先の徹底”を推進するべく、製造現場で作業する従業員へ声を掛けながら、安全作業の励行や整理整頓などの5Sの進捗状況を視察しました。各拠点では現場管理レベルのさらなる向上のため、このトップパトロールの結果を基に、さまざまな改善策を施しています。



龍野工場での視察

Voice 協力会社とともに消防訓練を実施

リンテック・コリア社では、2014年10月31日に68人（当社55人、協力会社13人）が参加した全体消防訓練を実施しました。今回の訓練では、溶剤取り扱い中の火災発生を想定し、初期対応、避難、救助活動、消火器・消火栓を利用した消火活動を行いました。雨の中、全員が積極的に訓練に参加し、自分や仲間の命の重要性を考え、緊急事態の際には、冷静に判断・行動しなければならないことを学びました。



リンテック・コリア社（韓国）製造部 部長
金 辰熙
（キム・ジンヒ）

BCMSにおける防災対策

BCMSにおける防災・減災対策では、人命最優先としたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点において災害別の危険を特定し、分析・評価を実施。防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案し実行することをBCMSのルールに定めています。また、これらの災害対策は演習を行うことで、対策の妥当性・効果性を高めています。

リンテックでは、BCMS演習として各拠点でさまざまな訓練を実施するとともに、防災用品の準備や衛星電話の導入による通信手段の複数化など、リスクの低減に努めています。

2014年10月20日には「全国的な震度6弱の地震発生」を想定し、国内26拠点と協力会社から約3,600人が参加し、安否確認訓練を実施しました。今後も年に複数回の訓練を実施する予定です。



本社の災害用備蓄品

2014年度 防災訓練

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年4回	避難訓練・ 消火訓練等	516
小松島工場	年7回		368
三島工場・土居加工工場	年3回		500
東京リンテック加工(株)	年2回		160
吾妻工場	年2回		420
研究所	年2回		575
新居浜加工所	年4回		35
伊奈テクノロジーセンター	年5回		345
龍野工場	年6回		714
千葉工場	年17回		314
新宮事業所	年12回		565
計			4,512

Voice 体験機により災害撲滅

三島工場では回転体災害撲滅に向け、巻き込まれ体験機と食い込まれ体験機の2台の安全体験機を製造しました。体験した従業員は、巻き込まれる瞬間の怖さやベルトに挟まれた木片の折れる様子から、回転体に手を出す危険を実感し、安全意識の向上に役立っています。現在、この体験機を各工場へ展開し、リンテック全体の回転体災害防止を図っています。



三島工場 事務課 課長
近藤 素司

地域社会とともに

リンテックグループは、地域や社会に支えられ、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行っています。

リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。このページでは、その一部をピックアップして紹介します。

■ リンテックグループ全体での活動

東日本大震災復興支援／植林ボランティア／団体献血／美化清掃活動／ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収／日本赤十字への寄附、赤い羽根募金、緑の羽根募金

■ 次世代育成

第8回夏休み紙工作コンテスト／くらしか協賛

■ スポーツ振興

中曽根スポーツ少年団全国大会寄附／日本社会人野球応援ツアー

■ 地域安全活動

暴走連街頭キャンペーン／AED*の講習会／小学校通学マップにて「子ども110番の家」として登録

■ 障がい者支援

ふれあいコンサート／障害者福祉施設（蕨市、文京区、たつの市）によるパン販売／四国中央市障害児教育支援チャリティーゴルフ大会への協賛／板橋区障がい者スポーツ大会へ製品提供／東京ドーム野球観戦ご招待／教育機関へのベルマーク運動の参加および障がい者支援活動

■ 地域の祭事などへの協賛・支援

東吾妻ふるさと祭／大酉祭／原町お祭りカレンダー／川戸神社／浅間神社春季大祭／金井一宮神社春季大祭／熊谷うちわ祭／熊谷花火大会／3地区子供会六條八幡神社神輿／六条八幡神社安全祈願祭／たつの市新宮町納涼ふれあいまつり&花火大会／たつの市神岡町小那田自治会納涼祭／たつの市神岡町神岡スポーツ振興会ふるさとコンペ／土居町釣り大会／龍野神社／小宅神社／疎水感謝祭／天神祭花火大会／水波神社崇敬会／四国中央市土居夏まつり花火大会／三島太鼓祭り／土居太鼓祭り／榎神社奉納金／大塚神社奉納金／春日神社奉納金／興願寺／朝日文化会館忘れ演芸大会／そうさチューリップ祭り／第4回伊奈町B級グルメ王決定戦／わらび機まつり／中仙道蕨宿場まつり／阿波踊り／板橋花火大会／板橋本町上町会祭礼奉納金

■ 製品の寄贈

保育園・小学校など14校へ紙製品を寄付／さいたま市こどもがつくるまち事業へ製品を寄付／公益財団法人兵庫青少年本部「ひょうご子ども・若者応援団」事業へ残紙を寄付

* AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

|| 継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動を行っています。

2014年度からは板橋区（リンテック本社所在地）と「連携協力協定」を締結している岩手県大船渡市への支援金を募り、従業員からの寄附金に、会社とリンテックフォーレスト*から、それぞれ同額を加えたマッチングギフト形式で寄附しました。寄附金は、中学校の運動環境改善整備事業の費用として利用され、生徒の体育・スポーツ活動の充実に役立っています。また本社では福島物産展を開催し、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続していきます。

* リンテックフォーレスト：リンテックの労働組合。



大船渡市副市長が来社



福島物産展の様子

|| 団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施していきます。



本社での団体献血

2014年度 献血実績

事業所名	実施回数(回)	参加者数(人)
三島工場	2	49
小松島工場	2	23
龍野工場・新宮事業所	2	45
研究所	2	80
千葉工場	2	35
東京リンテック加工	2	10
熊谷工場	2	53
吾妻工場	2	84
伊奈テクノロジーセンター	2	49
大阪支店	2	25
飯田橋オフィス	1	55
本社	2	73
計	23	581

Voice アフリカの子供たちに帽子を贈りました

国際援助団体（NGO）セーブ・ザ・チルドレンの「新生児帽子編みキャンペーン」に参加しました。気温差の激しいアフリカ諸国で低体温症により死亡してしまう新生児を救うため、小さな帽子を編んで贈る活動です。多くの従業員が自主的に参加し、39個の帽子をつくりアフリカの子供たちに寄贈しました。



リンテック・スペシャリ
ティール・フィルムズ（韓国）
社
製造部 主任
Han Yu Ra
（ハン・ユラ）

|| 美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2014年度は国内全事業所で延べ2,813人が参加しました。近隣企業や地域住民の皆様と協力しながら、社会貢献活動の一環として地域環境を美しく保つ清掃活動に積極的に取り組んでいます。



熊谷工場の荒川河川敷の清掃

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

2,813人

2014年度 美化・清掃活動

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
吾妻工場	月2回	工場近隣ゴミ拾い	96
熊谷工場	2014年6月16日	荒川土手清掃	126
	2014年11月9日	荒川クリーンエイド	35
研究所	月1回	研究所周辺公道ゴミ拾い	134
東京リンテック加工	年24回	敷地内外清掃	504
	年2回	駐車場、工場外回り草刈り	30
千葉工場	2014年5月29日	みどり平工業団地ゴミゼロ運動	6
	2014年7月19日	蓮沼海岸ゴミ拾い	56
	2014年7月17日	吉崎浜草刈り	3
龍野工場	月1回	工場周辺清掃	770
	2014年5月13日	工場周辺溝清掃	20
	2014年11月21日	揖保川河川敷清掃	60
新宮事業所	年24回	事業場周辺清掃	678
	2014年5月15日	工場周辺溝清掃(龍野事務所)	21
三島工場	2014年5月18日	立石地区排水路掃除	2
	2014年5月25日	土居工場周辺土手の草刈り	21
	2014年7月6日	寒川豊岡海浜公園ビーチ清掃	3
	2015年3月4日	三島工場周辺の公道ゴミ拾い	55

小松島工場	2014年4月26日	豊かな海クリーンアップ作戦	35
	2014年5月30日	工場前道路清掃	38
	2014年6月14日	リフレッシュ瀬戸内(海浜清掃活動)	50
	2014年10月7日	工場前道路清掃	37
	2014年10月25日	協働の森へ行こう(植林活動)	10
伊奈テクノロジーセンター	2014年4月9日	隣接駐車場清掃	5
	2014年5月13日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	9
	2014年10月10日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	9
計			2,813

※ 地域の美化清掃活動への参加者 延べ人数は、再算出の結果2,688人となりました。

植樹活動

千葉工場では、東日本大震災の発生による津波被害を受けた千葉県九十九里陸の海岸保安林を再生するための活動「緑化推進委員会(緑の募金)の森づくり 2014下刈」に参加しました。2013年4月と2014年3月に植栽を行った海岸保安林の苗木の成長を助けるための重要な作業である「下刈り」の作業を行いました。7月17日に行われた「下刈り」には、千葉工場からは3名が参加し、蒸し暑い中、適度な水分補給に気を配りながら苗木の健やかな成長を願って草刈り勤めました。



千葉工場の植樹活動

地域安全活動

伊奈町消防署で毎年行われている屋内消火栓操法大会に、伊奈テクノロジーセンターから男女各1チームが参加しました。この大会は、町内の各企業・団体の代表が屋内消火栓設備の取扱技術を競い合うものです。女子チームは練習の成果を出し切り第3位に入賞、個人の部でも優秀選手賞に選ばれました。今後も、大会への参加を通じて、地域住民の皆様とともに防災意識のさらなる向上につなげていきます。

障がい者支援

2014年4月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対福岡ソフトバンクホークス」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計115人をご招待しました。本活動は今回で8回目を迎え、観戦後には「ありがとう、楽しかった」「来年もこの催しにぜひ参加したい」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。

地域の祭事への協賛

熊谷工場がある熊谷市では、毎年7月20日から22日に「熊谷うちわ祭」が開催されています。「熊谷うちわ祭」は3日間で70万人以上の人を訪れ、関東一の祇園祭と称されるほどにぎやかなお祭りです。熊谷工場では、八坂神社にうちわを奉納する形でお祭りに協賛し、奉納されたうちわは、うちわ祭に来られた見物客の皆さんに配られています。



奉納したうちわ

地域の祭事への参加

小松島工場では、8月12日に徳島県で開催された「阿波踊り」に80人が参加しました。「阿波踊り」は約400年の歴史を持ち、数十人の“連”とよばれる組をつくり、三味線、笛、鉦（かね）、太鼓のリズムに合わせて老若男女が一緒になって踊る日本を代表する夏の祭りです。小松島工場では、毎年工場内で有志を募り“リントック連”として参加し、祭りを盛り上げています。



小松島工場の阿波踊り参加

社会貢献活動

「みどりのカーテン」で節電

2014年も暑い熊谷工場では事務所の前にゴーヤで緑のカーテンを設置し、葉の蒸散作用と直射日光を遮ることによる室内温度の低下で、エアコンの節電に効果がありました。見事に育ったゴーヤは、熊谷市地球温暖化対策の一環「みどりのカーテンコンテスト」事業所の部で、優秀賞を受賞しました。




みどりのカーテン

次世代育成

独自技術で新製品を開発するリントックにとって、次世代の育成は重要なテーマです。リントックでは、未来を担う世代の育成と子供たちの理科離れ防止のために活動をしている(社)蔵前工業会の蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称：くらりか)の寺子屋式理科教室に協賛しています。「くらりか」は、全国の児童館や地域のコミュニティセンターなどで出前授業を行っており、2014年度は年間467教室で開催し、参加生徒数は累計で12,700人を超えました。そのうち、リントックからの協賛によって、2014年度は、東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県、兵庫県、大阪府の6地域16教室の工作・実験用教材の購入に使用されました。今後も引き続き、「くらりか」への協賛と協力を通じて、子供たちの科学に対する豊かな感性を醸成していきます。

「くらりか」のウェブサイトでも、リントックの活動が紹介されています。

[▶ 「くらりか」ウェブサイト](#) 

工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2014年度は6事業所に合計685人が見学に訪れました。

(海外グループ会社を除く)



熊谷工場での見学受け入れ

2014年度 工場・施設での受け入れ

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
三島工場	2014年12月9日	紙産業センター職員	5
東京リンテック加工	2014年11月12日	蕨市立中央小学校	70
	2014年11月13日	蕨市立中央東小学校	75
	2014年11月19日	蕨市立南小学校	79
	2014年11月20日	蕨市立北小学校	96
	2014年12月8日	蕨市立西小学校	66
	2014年12月2日	蕨市立塚越小学校	61
熊谷工場	2014年10月9日	吉岡小学校	51
	2014年11月13日	桜木小学校	35
	2015年2月6日	熊谷商業高等学校	52
吾妻工場	2014年7月31日	吾妻経営懇話会	24
	2014年11月25日	坂上小学校3年生	13
	2015年2月6日	岩島小学校3年生	15
龍野工場		龍野商工会議所	27
千葉工場	2014年8月20日	東総地区小学校教諭	16
計			685

株主とともに

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR*活動を展開

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行い、海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントでのミーティングに加え、継続的な海外投資家訪問を行っています。また、個人投資家向け会社説明会の実施や当社IRサイトの充実にも努め、幅広い投資家に当社への理解促進を図っています。さらに、株主通信誌「WAVE」を年4回発行しており、定期的に行っている読者アンケートを通じて寄せられた声を誌面の企画やIR活動に生かしています。

* IR：Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に向けて、経営や財務、業績などの企業情報を提供する活動。



▶ <http://www.lintec.co.jp/ir/>



ロンドンでのIRミーティング

コミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーのかたがたとの対話を図っています。

お客様とのコミュニケーション

お客様に対し、製品やサービス、営業活動、説明書やMSDS、お問い合わせ窓口、ウェブや展示会など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。

- ▶ 国内外の展示会に出展

お取引先とのコミュニケーション

お取引先に対し、購買活動や説明会、アンケートなど、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、校正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。

従業員とのコミュニケーション

従業員に対し、事業活動や教育制度、説明会や懇親会、イントラネットや社内報など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、全従業員が社是のもと、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。

- ▶ コミュニケーションマガジンの発行/CSRコミュニケーション

地域社会とのコミュニケーション

地域社会に対し、工場・施設の見学や地元自治体との意見交換会、社会貢献活動、ウェブサイトや会社案内など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。

- ▶ 工場・施設見学の受け入れ

株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家に対し、株主総会や投資家説明会、ウェブサイトや株主通信、アニュアルレポート、決算短信、有価証券報告書など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、企業価値の向上と信頼関係の構築を目指します。

▶ 積極的なIR活動を展開

マスメディアとのコミュニケーション

マスメディア、ひいては社会に対し、取材・原稿執筆依頼への対応、アンケート回答、ウェブサイトやニュースリリースなどさまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、社会へ誠実に情報を開示し、信頼関係の構築を目指します。

|| NHKの取材への対応

リンテックでは、NHKの朝の情報番組「あさイチ」から取材を受け、シールやラベルの上手な剥がし方を紹介しました。貼られている面に沿うように引っ張って剥がしていく「180度ピール法」や、サラダ油で粘着剤を柔らかくする方法などを解説。放送日当日にはスタジオで、番組出演者や視聴者からの質問にも回答しました。リンテックグループは今後も、こうしたPR活動を通じて社会が知りたいと求める情報を提供していきます。



研究所での取材対応

|| 取材に対しての受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2014年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約60件でした。

小松島工場

- 徳島労働局長表彰奨励賞

千葉工場

- 千葉県産業安全衛生大会で「安全管理優良事業賞」受賞

吾妻工場

- 吾妻危険物安全協会「優良危険物関係従事者表彰」

熊谷工場

- 熊谷市「第6回みどりのカーテンコンテスト」優秀賞
- 熊谷職警連協議会「優良勤労者表彰」
- 熊谷市消防本部「第25回自衛消防隊初期消火訓練指導会敢闘賞」
- 熊谷地区労働基準協会「優良従業員表彰」

伊奈テクノロジーセンター

- 伊奈消防署操法大会で女子チーム3位入賞

大阪支店

- 日本赤十字社から「献血功労団体」として表彰

龍野工場

- 兵庫県トラック協会「チャレンジ100運動」品質保証課、製造技術課チーム

環境マネジメント

リンテックグループは、国際標準規格であるISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築しています。「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、さまざまな取り組みを推進しています。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を定めています。この方針は、品質・環境に関する行動指針に、自然災害やパンデミック*などの発生に備えた事業継続に関する行動指針を加え、さまざまな側面から社会的責任を果たす内容となっています。環境分野ではCO₂排出量、電力使用量などに中期目標を定め、目標を明確化した環境保全活動を推進しています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

環境分野におけるリンテック中期目標（2014年～2016年）

CO ₂ 排出量	対前年度原単位比で1.6%削減
電力使用量	対前年度原単位比で0.2%削減
廃棄物発生量	前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位比で2%削減

* パンデミック：感染症などが世界的規模で流行すること。

環境マネジメントシステム統合認証

リンテックグループでは、ISO14001のグローバル統合認証*取得を進めています。2014年11月～2015年1月に受審した更新審査および変更審査により、マディコ社（アメリカ）セント・ピーターズバーグ工場の統合が認証されました。これにより海外グループ10社を統合し、本社、国内10工場、研究所および東京リンテック加工（株）と合わせて23拠点になりました。今後もグループ一体となって環境保全活動に尽力し、ISO14001のグローバル統合認証取得を進めていきます。

* グローバル統合認証：世界中にある複数の会社・事業所を一つの組織体としてまとめて取得する、ISO14001の認証。

内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムに基づいた各サイトの適切な運用および法令・規定の遵守状況を確認するため、サイト内部監査およびサイト相互監査を実施。サイト相互監査は、リンテック独自の資格である「主任監査員」を持つ従業員が担当しています。2014年度は主任監査員を11人養成し、累計175人となりました。

サイト相互監査担当の
主任監査員人数

175人

環境コンプライアンス

全リンテックグループでは数多くの環境関連法令を遵守しています。海外および国内各サイトでは、環境管理部門が各自治体の条例を含めた法令にかかわる改定状況の監視や、サイト内の法令遵守状況を確認しています。法令遵守の確認作業は、環境マネジメントシステムに取り込み、定期的実施しています。なお、2012年度から2014年度までの過去3年間において、重大な違反はありませんでした。

生物多様性保全のための取り組み

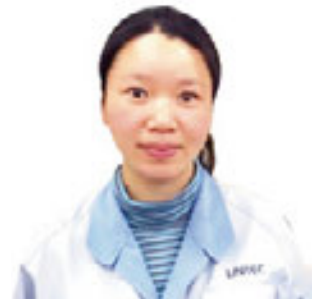
近年、自然環境の破壊などにより生態系のバランスが壊れつつあるといわれ、生物多様性の崩壊が危惧されています。リンテックグループは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に“生物多様性の保全”を盛り込み、ISO14001の統合認証を取得した23拠点を中心に、生物多様性保全に向けた活動を推進しています。今後も各拠点において地域に根付いた活動を継続し、生物多様性の保全に努めていきます。



「リンテックエコニュース」で生物多様性の情報を発信

Voice 花壇の整備を通じて、生物多様性を学ぶ

琳得科（蘇州）科技有限公司では、生物多様性に関する従業員の理解促進を目的に、2014年9月に花壇を設置しました。全従業員が花壇整備に参加できるように、花壇は事業所の構内に設け、部署ごとに区分けしています。花々の世話をしながら、飛来する昆虫などを観察し、“生物多様性の保全”への意識向上を図っていきます。



琳得科（蘇州）科技有限公司
（中国）
EMS事務局
楊 水芳
（ヤン・スイファン）

環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

* LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、LCA*基準に準じた環境配慮製品の開発を進め、2014年度は23件（目標12件）の開発を行いました。また、ISO14021*5に準拠した“自己宣言型環境配慮製品”のガイドラインに沿って既存製品を見直しました。今後も引き続きこれらのガイドラインを運用し、環境配慮製品の開発に努めていきます。

* ISO14021：「環境ラベルおよび宣言－自己宣言による環境主張（タイプII環境ラベリング）」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で節電・省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、プラスチック成形品と同質同素材を使用し、リサイクル・リユースの促進に貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立つ製品開発に力を注ぐとともに、お客様に満足していただける製品開発を継続していきます。

資源循環促進に貢献する新製品「カイナスシリーズ KP5000」

リンテックは、環境配慮製品「カイナスシリーズ」の新製品として、メカニカルリサイクルPETを使用したラベル素材「KP5000」の販売を2015年2月より開始しました。メカニカルリサイクルとは、分別ごみとして回収されたペットボトルを活用し、高品質かつ衛生的な再生PET樹脂を生成するリサイクル手法です。「KP5000」では、再生樹脂を80%以上含有したフィルムを使用しています。同製品をお客様にご利用いただくことで資源循環の促進につながり、石油資源の枯渇抑制や、環境負荷低減に貢献することができます。



KP5000を使用したラベル



エコプロダクツ2014に出展

環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

化粧品やボトル容器に使用されるラベルは、そのほとんどに強粘着タイプの粘着剤が使用されており、きれいにはがしにくいという課題がありました。これを解決するため、リンテックでは、きれいにはがせるラベル素材の新ブランド「REPOP」シリーズを2012年6月に立ち上げました。ラベル素材に強粘再剥離タイプの新規粘着剤を採用しています。これは使用時には高い粘着性を持ちつつも、きれいにはがすことができ、プラスチック容器のリユースやリサイクルに対応した製品となっています。また、粘着剤には有機溶剤を使用しない水系エマルジョン*型を採用しているため、製造する際の環境負荷物質の低減に貢献しています。



のり残りが少なく、きれいにはがせる粘着剤を採用

* エマルジョン：乳濁液や乳剤ともいわれる。水と油のような混ざり合わない液体について、一方が粒状になって他の液体の中に分散した状態。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

地球温暖化防止

事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500klを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（略称：省エネルギー法）」に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上改善することが求められています。2014年度は、生産設備の効率運転、空調管理やLED照明採用の拡大、排熱回収利用、VOC燃焼熱利用などの省エネルギー活動を推進しました。

* 国内リンテックグループ：リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、大阪リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)、(株)レンリ。

省エネルギー推進委員会

省エネルギー法に対応するため、国内リンテックグループでは、省エネルギー推進委員の管理下で、各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動を推進しています。2014年度は、省エネルギー法に基づき選任したエネルギー管理者を招集し、ムダ・ムラの削減について再確認しました。また、龍野工場では焼却炉ボイラーにエコノマイザー*を設置し、流出する熱量を低減しました。



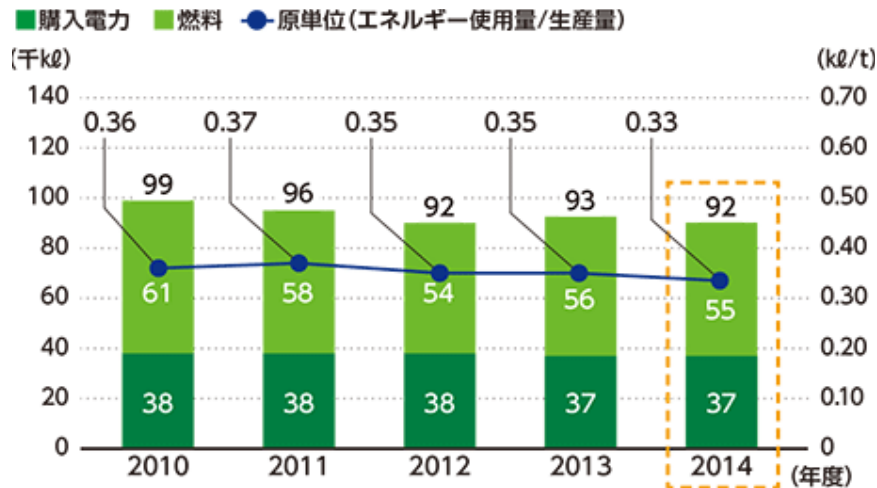
焼却炉ボイラーにエコノマイザーを設置
(龍野工場)

|| エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2014年度のエネルギー総使用量（原油換算）については、生産量が増加したものの前年度から1.2%減少しました。エネルギー原単位は4.6%改善し、0.3289kl/tになりました。なお、電力使用量は、1.8%改善しました。また、2014年度のCO₂排出量は202千tとなり、目標排出量205千t以下を達成しました。

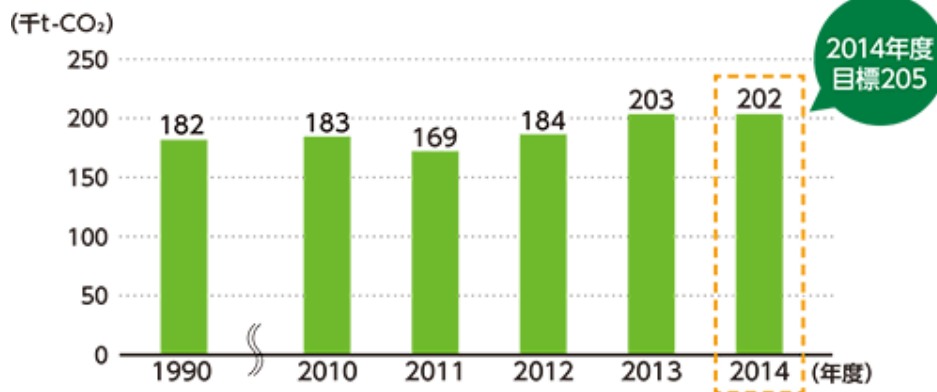
2015年度は、2014年度原単位比で、CO₂排出量は1.6%、電力使用量は0.2%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



※ 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



※1 CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO₂排出係数を乗じて算出しています。

※2 1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2009年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。

※3 上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

|| 排ガス処理装置の改造などによりCO₂排出量を削減

新宮事業所龍野事務所では、粘着塗工工程で使用する粘着剤を見直し、VOC（揮発性有機化合物）濃度の低い品種に変更しました。また、排ガス処理装置を改造し、LNG使用量を約50%削減しました。さらに、排熱ボイラーの設置により、さらなるLNG使用量削減を実現しています。こうした取り組みが実を結び、2013年度より生産量が約40%増加したにもかかわらず、CO₂排出量は約8%削減しました。



新宮事業所に設置した排熱ボイラー

|| 太陽光発電

リンテックでは、太陽光発電システムを本格導入しています。2013年1月から、土居加工工場全工棟の屋根に設置した出力約1,000kWの太陽光発電システムが稼働しました。2013年3月には、吾妻工場にも出力約500kWの太陽光発電システムを設置、稼働しています。これは、両工場合わせ、CO₂削減量換算で年間約500t-CO₂/年に該当します。



土居加工工場に設置された太陽光パネル
(約10,000m²)



吾妻工場に設置された太陽光パネル
(約5,000m²)

|| CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度から2010年度までの5年間で、従来は重油・灯油を燃焼して蒸気を発生させていたボイラ設備の燃料を、CO₂排出量がより少ない都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を進めてきました。2011年1月に実施した吾妻工場の第2期燃料転換工事完了をもって、リンテックの国内工場におけるボイラ設備燃料転換は完了しました。今後は、排熱の有効利用やボイラの効率運転などの省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。

2014年12月に熊谷工場で熱媒ボイラー排ガス系統に熱交換器を設置し燃焼空気（ボイラー給気）を予熱することにより燃料（都市ガス）使用量の削減を図っています。



熊谷工場の燃焼空気予熱器

排熱ボイラー設置によるエネルギーの有効活用

土居加工工場と小松島工場では、VOC（揮発性有機化合物）を処理するための排ガス処理装置（RTO式）に、排熱ボイラーを設置して蒸気の回収を行い、CO₂排出量の削減につなげています。2013年9月に千葉工場、12月に新宮事業所に同様の設備を導入し、さらなるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



千葉工場に設置した排熱ボイラー

照明用電力の削減

リンテックグループは、継続して省エネルギー活動を推進しています。エネルギー使用量の見える化を推進し、空調管理や休日における待機電力の削減などに取り組んでいます。また、計画的に照明のLED化を進めています。東京リンテック加工株式会社では、2011年度～2014年度には加工室の蛍光灯をLEDに変更しました。2014度は外灯及び、水銀灯をLEDに変更しました。これにより、東京リンテック加工株式会社の照明の約8割がLEDに変わりました。



LEDへ変更した加工室

Voice 電力および資源の削減活動を推進

普林特科（天津）標籤有限公司では、2013年11月より、電力および資源の削減などに努めています。電力の削減活動は、昼間は廊下の電灯を消す、空調機の温度調整（夏場28℃以上、冬場23℃以下に設定）などの節電を心掛けています。資源の削減活動では、書類を電子版（PDF）で管理し、プリンタ用紙の削減に取り組んでいます。今後も温暖化対策を継続し、環境に配慮した活動を全従業員で推進していきます。



普林特科（天津）標籤有限公司（中国）
品質保証課 班長
王 福英
（ワン・フィン）

物流における取り組み

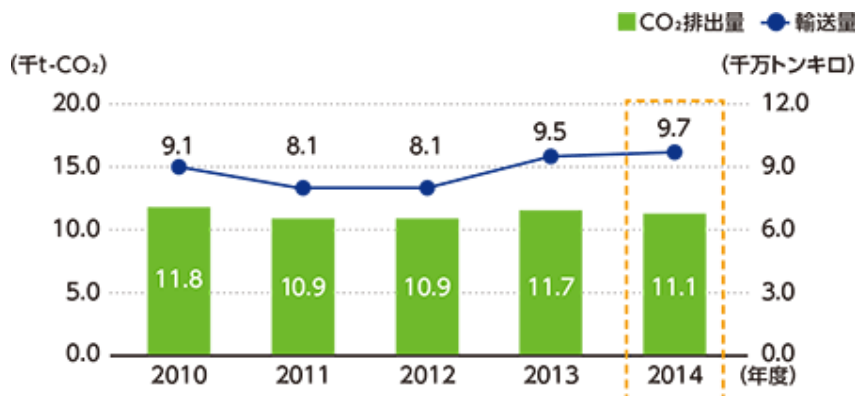
リンテックは省エネルギー法の定める特定荷主（委託貨物輸送量3,000万トンキロ*/年以上）に該当しているため、これに対応するための計画を国に提出（年1回）しています。2014年度の輸送によるCO₂排出量は生産量の増加に伴い増加し、エネルギー使用量は約1.9%増加、一方、エネルギー使用量原単位（売上高当たり）は約2.3%減少しました。今後も引き続き、輸送効率向上に取り組んでいきます。

* トンキロ：貨物の輸送量を表わす単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

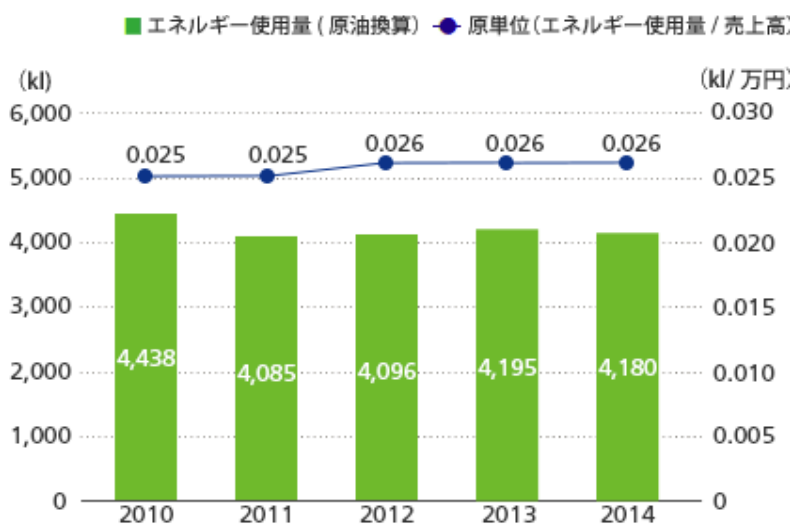


三島工場における輸送頻度削減に向けた取り組み

CO₂排出量と輸送量



エネルギー使用量



Voice 省エネ対応の空調設備を導入

研究所では18年以上使用してきた標準環境試験室の更新にあたり、CO₂削減を考慮した空調設備を導入しました。標準環境試験室は、物性測定を実施する際の標準環境を維持するため、常に空調管理する必要があります。2014年10月より新しい空調設備の運用を開始し、1か月平均で約26千kWhの消費電力削減を達成、年間で100t以上のCO₂削減につながる見通しです。こうした省エネ設備の導入をはじめ、今後もさまざまな形で環境に配慮した対応を心掛けていきます。



生産システム技術部 設備システム課 係長
岸野 修二

廃棄物の削減

リンテックグループでは、循環型社会の実現に向けリデュース、リユース、リサイクルの3Rについても積極的に取り組み、資源の有効利用や廃棄物の削減を常に心掛けています。

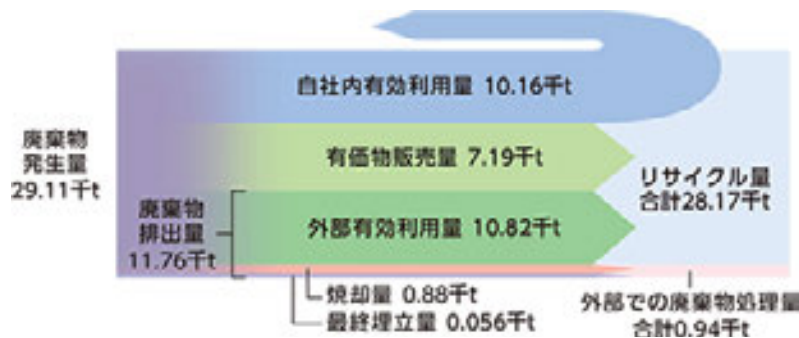
廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックにおける2014年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は29.11千tで、廃棄物排出量は11.76千tとなりました。このうち10.82千tは外部で再資源化され、それ以外の0.94千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。2014年度の最終埋立比率*1は約0.19%となり、目標（0.2%以下）を達成し、2007年度から継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。2014年度から2016年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

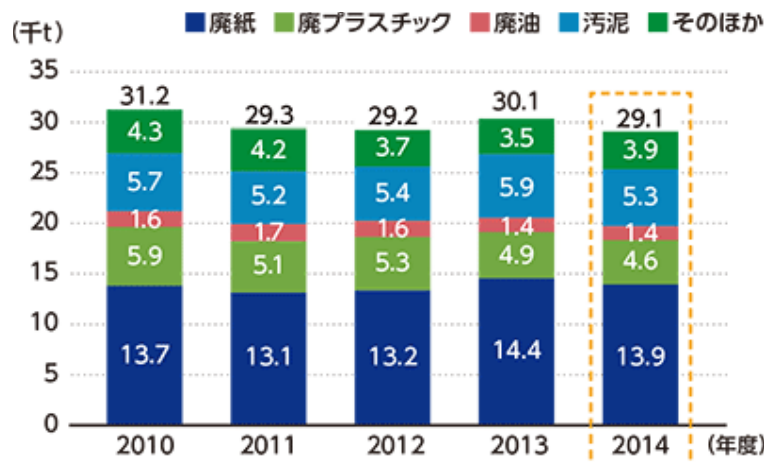
*1 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率＝最終埋立量/廃棄物発生量×100

*2 ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

廃棄物の流れ(2014年度)



廃棄物発生量



リデュースの取り組み

リントックグループ各工場の製造部門では、廃棄物の発生を抑制するため、歩留まりの向上を図っています。

リユースの取り組み

リントック製品の多くはロール状で製造されるため、各工程において巻芯が使用されます。巻芯は製品とともに運搬されますが、一部は回収して工程内でリユースしています。また、製品の運搬に使用されるプラスチックパレットの一部についても、回収してリユースしています。

リサイクルの取り組み

リントックグループでは、2014年度も引き続きマテリアル リサイクル*1とサーマルリサイクル*2に取り組んでいます。龍野工場と熊谷工場では、マテリアルリサイクルに不向きな紙系廃棄物を固形燃料としてサーマルリサイクルしています。また、リントック・インダストリーズ(サラワク)社では、裁断時に発生する断材をリサイクル業者に有価物として売却するなど、各工場が発生する廃棄物を再生資源として利用しています。

*1 マテリアルリサイクル：古紙を再生紙の原料に、空き缶を金属材に、ペットボトルを化学繊維材料にするなど、廃棄物を原料として再利用。サーマルリサイクル以外のリサイクル。

*2 サーマルリサイクル：廃棄物を単に焼却するのではなく、熱や電力として回収したり、燃料にするなど、エネルギーとしての再利用。



固形燃料

Voice スラッジを再活用する取り組み

熊谷工場では、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを徹底しています。その一例として、紙を生産する際に発生するスラッジ(製紙工程において紙にならなかった微細な木質繊維と粘土質の充填剤からなる汚泥)を、セメントの原料や酪農における乳牛の敷料(牛の寝床に敷くもの)などに活用してきました。また、2014年より、スラッジを発酵処理して有機肥料を生成する取り組みを開始しました。



スラッジより生成された肥料



熊谷工場
環境課 課長代理
刈谷 剛

Voice 市から認定された3Rの取り組み

龍野工場でも、リンテックグループの各工場が実施している3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを徹底しています。ごみの減量、分別徹底、地域の美化などを継続的に実施していることが認められ、2014年11月にたつの市から「ごみ減量化・再資源化活動推進宣言の店(たつのエコマスターショップ)」に認定されました。



認定証



龍野工場
設備技術課 動力係 係長
中安 祐司

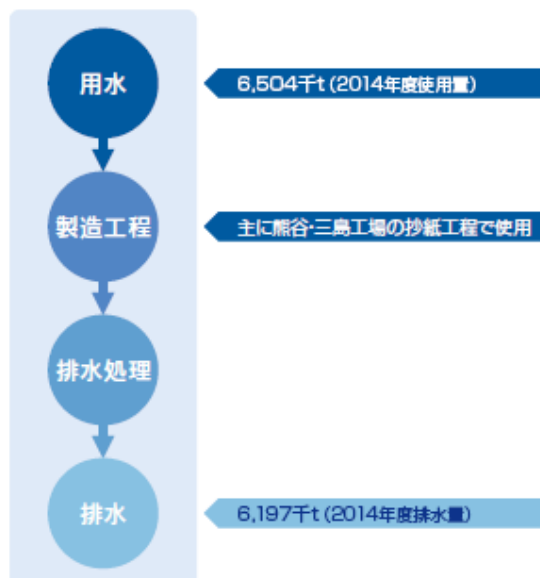
用水使用量の削減と排水対策

リンテックグループでは、水は限りある資源であるとの観点から、各工場における節水と回収水の再利用に努めています。また、周辺環境に与える影響を抑えるため、排水基準の遵守とともに、排水水質にも十分に注意を払っています。

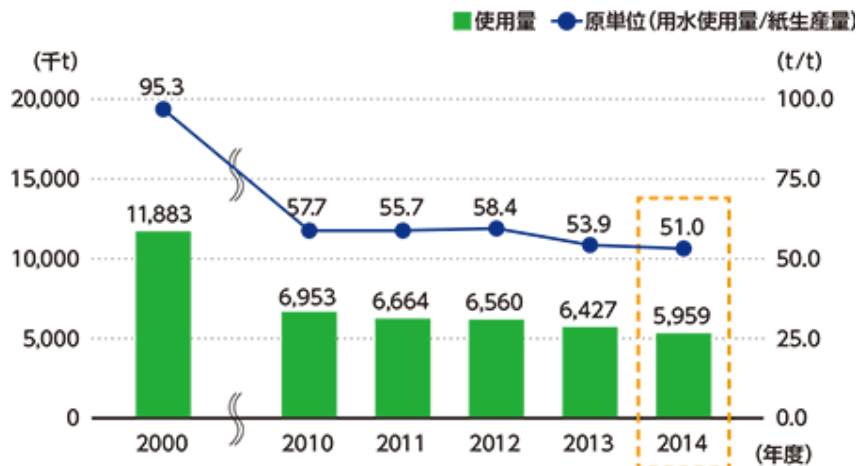
用水使用量と節水対策

リンテックにおける2014年度の用水使用量は6,504千tでした。このうち約93%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。生産工程における用水使用量の削減により、両工場の2014年度の用水使用量は前年度比で約7%減少、用水原単位（紙生産量当たり）は前年度から2.9t/t減少（原単位比5.4%減少）しました。節水対策として、製紙部門の各工程で用水使用量の削減に取り組むほか、配管の見直しや漏水対策を行っています。また、回収水の再利用による用水と排水の削減を図っています。2014年度から2016年度は原単位比で対前年度2%削減を目指しています。

用水使用から排水までの行程



用水使用量(熊谷工場・三島工場)



排水量削減と排水水質の改善

リンテックにおける2014年度の排水量は6,197千t/年でした。その約93%が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における配管ラインの洗浄工程の見直しにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水処理設備の適切な維持管理により、排水水質のさらなる向上に取り組んでいきます。



三島工場の排水処理設備

2014年度 排水水質

熊谷工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	7.91	7.17
濃度規制	SS*1(mg/ℓ)	60(50)以下	45	12.33
	BOD*2(mg/ℓ)	20以下	31	10.01
	COD*3(mg/ℓ)	-	39.5	19.64
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.136	0.239
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.27	0.0358
	リン(t/日)	0.0418以下	0.00804	0.00085

※1 BODにおいて、工場の自主基準（熊谷市との協定値）の20mg/ℓを超えたデータが有りましたが、埼玉県の上乗せ規制値は超えておりません。自主基準超過時には熊谷市に報告し対処しました。

三島工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	6.0~7.9	7
濃度規制	SS(mg/ℓ)	80(60)以下	48	5
	COD(mg/ℓ)	90(65)以下	84	25
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.4728	0.2678
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.2152	0.043
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0032	0.0008

※1 排水基準の()内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。

〈熊谷工場〉BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。

〈三島工場〉pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。

※2 実績の最大値の欄：pHについては最小値～最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

*1 SS：Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。

*2 BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

*3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

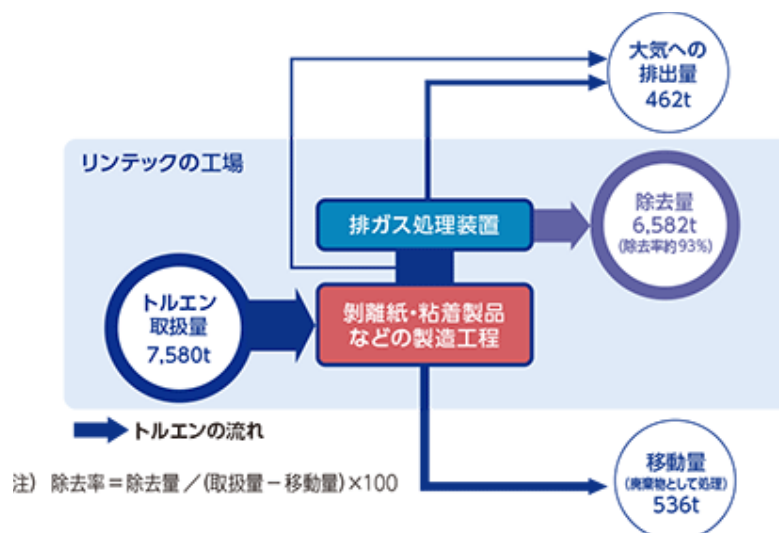
環境負荷物質の削減

リンテックグループでは、国内外における関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR*への対応

リンテックが2014年度に届け出たPRTR対象物質は10物質で、総取扱量は7,641tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,580tとなり、前年取扱量（7,464t）より116t増加しました。2014年度のトルエンの大気への排出量は462tで前年度排出量（477t）より15t減少し、移動量は536tで前年度（569t）より30t減少しました。

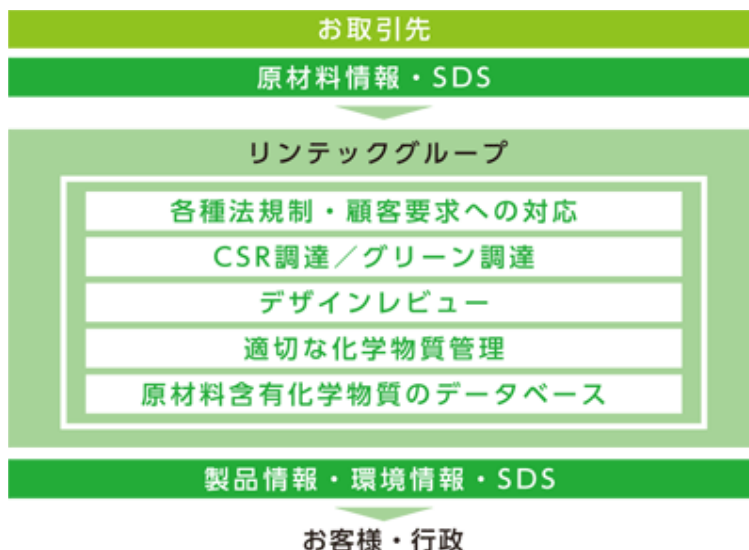
トルエンの排出量・移動量（2014年度）



* PRTR：Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、公表する仕組み。

リンテックでは、原材料の環境負荷物質含有調査を行い、必要な情報をお客様に開示しています。また現在、SDS*1対象製品におけるGHS*2対応への準備を進めるなど、REACH規則*3を含む各種環境規制への対応を推進し、製品含有化学物質のさらなる管理効率化に取り組んでいます。今後、RoHS指令*4の制限物質の追加が予定されているため、環境に配慮した対象化学物質の削減・代替も継続しています。

製品情報提出の流れ



*1 SDS：Safety Data Sheet（安全データシート）の略称。有害性のおそれがある化学物質を含む製品をほかの事業者に譲渡または提供する際に、対象化学物質の取り扱いなどに関する情報を提供するための文書。

*2 GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）の略称。化学品の危険有害性に関する国際的な危険有害性分類基準と表示方法に関する仕組み。

*3 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

*4 RoHS指令：電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についてのEUによる指令。

災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練

リンテックグループでは災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練の実施を強化しています。2014年度は三島工場、吾妻工場、熊谷工場、小松島工場、伊奈テクノロジーセンター、研究所、新居浜加工所、千葉工場、龍野工場など各事業所で訓練を実施しました。

PCB*の適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2014年度は低濃度廃棄物6台を処分しました。2015年3月に保有台数の調査を実施し、高濃度廃棄物78台（うち蛍光灯安定器50台）、低濃度廃棄物11台を保有していることを確認しました。今後は、含有の可能性のある器機の分析と低濃度廃棄物の早期処分を行い、高濃度廃棄物は継続して法令に基づき厳重に保管・管理していきます。

2014年度PCBの適正保管・管理状況

事業所名	PCB廃棄物 保管台数(台)	処理施設	委託処理 登録年度	処理完了 予定
熊谷工場	20	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005	2015年度
	6	低濃度のため未定	未定	未定
龍野工場	12	蛍光灯安定器のため未定	未定	未定
東京リンテック 加工(株)	6	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005	2015年度
	1	低濃度のため未定	未定	未定
三島工場	3	低濃度のため未定	未定	未定
研究所	38	蛍光灯安定器のため未定	未定	未定
小松島工場	1	低濃度のため未定	未定	未定
富士ライト(株)	2	東京事業所	未定	未定
合計	89（高濃度28台、蛍光灯安定器50台、低濃度11台）			

※ 微量PCBは日本環境安全事業(株)では処理を行わないため、民間を含めた委託処理先への登録を予定しています。

* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

VOC(揮発性有機化合物)の削減

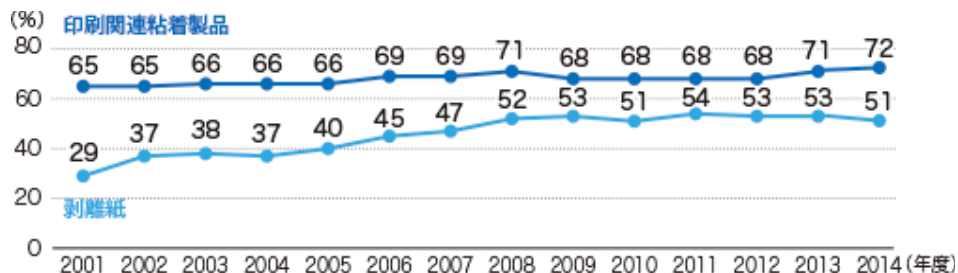
無溶剤化率の推移

リンテックでは、製品設計と排ガス処理設備の設置・運用の両面から、VOCの削減を推進しています。製品設計の側面からは、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2014年度の剥離紙の無溶剤化率（生産量ベース）は51%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率（販売量ベース）は72%でした。無溶剤化が可能な剥離剤および粘着剤のうち、主要なものはほぼ切り替えが完了しており、また排ガス処理設備の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理と排ガス処理設備の確実な運用で、環境負荷低減に努めていきます。

無溶剤化率
(2014年度販売量ベース)

72%

印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



※1 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

※2 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

Voice フロン排出抑制に向け、管理体制を強化

フロン回収・破壊法が改正され、フロン排出抑制法*として2015年4月より施行されました。リンテックでは、各事業所における管理体制をさらに強化しています。吾妻工場は冷媒フロンを使用する設備が多く、2014年度より空調設備メーカーや群馬県から指導を受けるなど、準備を進めてきました。今後もフロン類の大气放出の防止に努め、法令を遵守するとともに、地球温暖化防止に貢献していきます。

* フロン排出抑制法：正式名称は「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」。フロン類の回収・破壊に加え、フロン類の製造から廃棄までのライフサイクル全体にわたる包括的な対策を行うことが求められている。



吾妻工場
製造部 設備技術課
関 信明

環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。2014年度の投資額*1は326百万円、費用額*2は2,887百万円でした。投資額合計については、2013年度と比較して19百万円の増加となっており、温暖化防止や省エネルギー設備の導入によるものです。費用額合計については、2013年度と比較して9百万円減少しましたが、上・下流コストの副資材の回収・再生・再利用のためのコストは増加しました。なお、2014年度より、環境改善コストに分類していた「構内美化」を“管理活動における環境保全コスト”に分類し、新たに“社会活動コスト”を追加しました。

*1 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日
3. 参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

2014年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

	分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額
1.事業エリア内コスト	公害防止コスト				
	a.大気汚染防止	排ガス処理設備	35	大気汚染防止設備維持管理	479
	b.水質汚濁防止	排水処理設備	2	水質汚濁防止設備維持管理	101
	c.公害防止	-	-	PCB処理、スラッジ処理費	26
	地球環境保全コスト				
	a.地球温暖化防止	貫流ボイラー設備	52	燃料転換設備	273
	b.省エネルギー	焼却炉ボイラー用給水加熱器	201	自家発電設備維持管理	585
	資源循環コスト				
	a.資源の効率的な利用	損紙処理設備	27	古紙処理設備維持管理、古紙原料化	273
	b.廃棄物の減量化・削減・リサイクル	焼却炉ボイラー固形燃料化設備	10	焼却炉ボイラー設備維持管理、産業廃棄物処理	372
2.上・下流コスト	副資材の回収・再生・再使用	-	-	パレットの回収、副資材の引取	100
	グリーン調達・グリーン購入	-	-	環境配慮型事務用品の購入	6
3.管理活動コスト	環境管理システムの構築・運用	-	-	ISO14001審査・登録、環境保全組織運営	326
	環境情報開示	-	-	CSRレポート・サイト作成、エコプロダクツ出展	26
	環境負荷の監視・測定	環境計測器	0	規制物質の分析・測定	29
	環境教育	-	-	セミナー、講習会参加	1
	環境改善対策	-	-	構内美化、庭木剪定	28

4.研究開発コスト	-	-	環境保全に関する研究開発	363
5.社会活動コスト	-	-	第26回全国トンボ市民サミットたつの大会 協賛金	0
6.環境損傷対応コスト	-	-	汚染負荷量賦課金、漁業補償	18
合計	-	326	-	2,887

※ 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

2014年度 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		基準期間 (2013年度)	2014 年度	環境保全効果 (基準期間との差)
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	購入電力使用量(原油換算)	千kℓ	37	36	-1
	燃料使用量(原油換算)	千kℓ	56	55	-1
	有機溶剤使用量	千t	8.6	9.0	0.4
	用水使用量	千t	6,934	6,504	-430
2. 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	製造におけるCO ₂ 排出量	千t-CO ₂	203	202	-1
	トルエンの大气への排出量	千t	0.477	0.462	-0.015
	廃棄物排出量	千t	12.36	11.76	-0.6
	廃棄物焼却量	千t	0.74	0.88	0.1
	廃棄物最終埋立処分量	千t	0.10	0.06	0
	総排水量	千t	6,666	6,197	-469
	SO _x 排出量	t	8	6	-2
	NO _x 排出量	t	124	129	5

3. その他の環境保全効果	輸送に伴う燃料使用 量(原油換算)	kℓ	4,195	4,180	-15
	輸送に伴うCO ₂ 排出 量	千t- CO ₂	11.7	11.1	-0.6
	製品などの輸送量	千万トン 口	9.5	9.7	0.2

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

海外グループ会社12社の環境保全活動

リンテックグループでは、グローバル企業としての責任を果たすために、海外グループ会社における環境保全活動にも力を注いでいます。

会社名をクリックすると詳細がご覧いただけます。



琳得科（蘇州）科技有限公司



工務科
張 旭東
(ザン・シートン)

2013年度の第1工棟および付属棟屋根面への遮熱塗装に引き続き、2014年4月に、第2工棟危険物倉庫（床面積400m²、軒高6m）の屋根面と壁面に遮熱塗装を施工しました。今後も工場の省エネルギー化を推進し、CO₂排出量の削減に貢献していきます。

会社概要

所在地：中国 江蘇省蘇州新区

従業員数：197人

主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



第2工棟危険物倉庫の外観

琳得科（天津）実業有限公司



総務・人事部
賈 軍

(ジャー・ジュン)

工場内照明のLED化を進め、加工現場14基と組立現場16基、合計30基の照明をLEDに交換しました。また、リンテックグループCSRレポート2014を研修用テキストとして使用し、全従業員対象のCSRテストを実施するなど、従業員の意識啓発にも取り組んでいます。

会社概要

所在地：中国 天津市南開区

従業員数：91人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



組立現場のLED照明

普林特科（天津）標籤有限公司



品質保証室
張 琨

(ジャン・クン)

2014年12月に、従業員全員で生物多様性に関する勉強会を行いました。2012年に「絶滅危惧種」に指定されたキジバトの成長記録を追った写真とビデオを鑑賞し、生物多様性の重要性について勉強しました。

会社概要

所在地：中国 天津市西青経済開発区

従業員数：87人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



生物多様性の勉強会

リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社



副工場長
劉 芳源

(リュウ・ファンユエン)

排ガス処理装置の蓄熱炉材部で目詰まりが発生し、蓄熱効率が低下していたため、加熱用ガス使用量が大幅に増えていました。抜本的対策として2014年11月に蓄熱炉材部の更新工事を実施し、現在では、加熱用ガス使用量を当初設計値の半分まで低減することができました。

会社概要

所在地：台湾 台南市善化区

従業員数：96人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



排ガス処理装置の外観

リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社



管理部 工務課
江 徳維

(ジャン・デーウェイ)

工場排水の管理維持体制を強化するため、2015年2月に、既設排水処理設備のリターン処理ユニットを増設しました。また、2015年4月より、事務所内の蛍光灯を順次LED照明に交換予定です。今後も継続して省エネルギー化を推進していきます。

会社概要

所在地：台湾 高雄市前鎮加工出口区

従業員数：70人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



排水処理設備

|| リンテック・コリア社



工務課
金 在協
(キム・ジェヒョップ)

倉庫の照明を水銀ランプからLEDに交換しました。これにより、倉庫照明に使われる年間の電力使用量は約1/4まで削減される見込みです。また、作業環境の改善にもつながりました。今後も省エネルギー活動に取り組んでいきます。

会社概要

所在地：韓国 忠清北道清原郡

従業員数：72人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



倉庫内のLED照明

|| リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（韓国）社



設備技術部
金 明珍
(キム・ミョンジン)

2014年11月より、節電を目的に空調機と冷凍機の一般インバーターを高効率インバーターに入れ替えました。これにより該当設備に対して約10%以上の省エネルギー効果があり、期待される年間削減量は約261千kWh（約91.6t-CO₂）になります。

会社概要

所在地：韓国 京畿道平澤市

従業員数：124人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



高効率インバーター

|| リンテック・インドネシア社



安全・環境部
Ketut
(クトゥットゥ)

2014年5月に、事業所の構内において植樹を行いました。リンテック本社環境安全部からの参加もあり、リンテックグループ一丸となって、環境保全活動を推進する共通認識が芽生えるきっかけとなりました。今後もこの考え方を大切に、環境保全活動を継続していきます。

会社概要

所在地：インドネシア 西ジャワ州ボゴール

従業員数：312人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



植樹の様子

|| リンテック・インダストリーズ (マレーシア) 社



技術課

Tan Lean Ean

(タン・リエン・イェン)

リンテック・インダストリーズ (マレーシア) 社では、2014年4月にペナン島北西部の国立公園で自然体験学習会を実施しました。公園ガイドの方から動植物や自然環境の説明を受け、改めて生物多様性の重要性を認識する良い機会になりました。

会社概要

所在地：マレーシア ペナン州ブキ・メルタジャム

従業員数：93人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



国立公園での自然体験学習会

|| リンテック・インダストリーズ (サラワク) 社



財務・管理部門

Christina Teo

(クリスティーナ・ティオ)

リンテック・インダストリーズ (サラワク) 社は、小規模な工場であるため細かな所まで目が届きやすく、細部まで気を配りながら環境保全活動を推進しています。今後も3R (リデュース、リユース、リサイクル) を徹底し、環境保全活動を継続していきます。

会社概要

所在地：マレーシア サラワク州クチン

従業員数：24人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



ごみの分別を徹底

|| リンテック・シンガポール社



QA/QC部門

Sng Seng Leng

(スン・セン・レン)

リンテック・シンガポール社では、国立公園庁が運営する基金「ガーデンシティーファンド」への寄附活動を行っています。2014年9月に同基金主催の植樹イベントに参加し、国立公園内に25本の植樹を行いました。イベント参加を通して、生物多様性への意識向上につながりました。

会社概要

所在地：シンガポール サイバーハブ

従業員数：85人

主な事業内容：印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



植樹イベントに参加した従業員とその家族



セント・ピーターズ
バーグ工場技術部
John Storms
(ジョン・ストームズ)

マディコ社セント・ピーターズバーグ工場ウィンドーフィルム部門では、塗工ラインの粘着剤・有機溶剤の使用量を削減するため、2014年に新しい液体投入システムを導入しました。また、塗工設備の改善も行い、粘着剤・有機溶剤の廃液量を、年間約76kl削減することができました。

会社概要

所在地：アメリカ マサチューセッツ州ウーバン

従業員数：272人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売

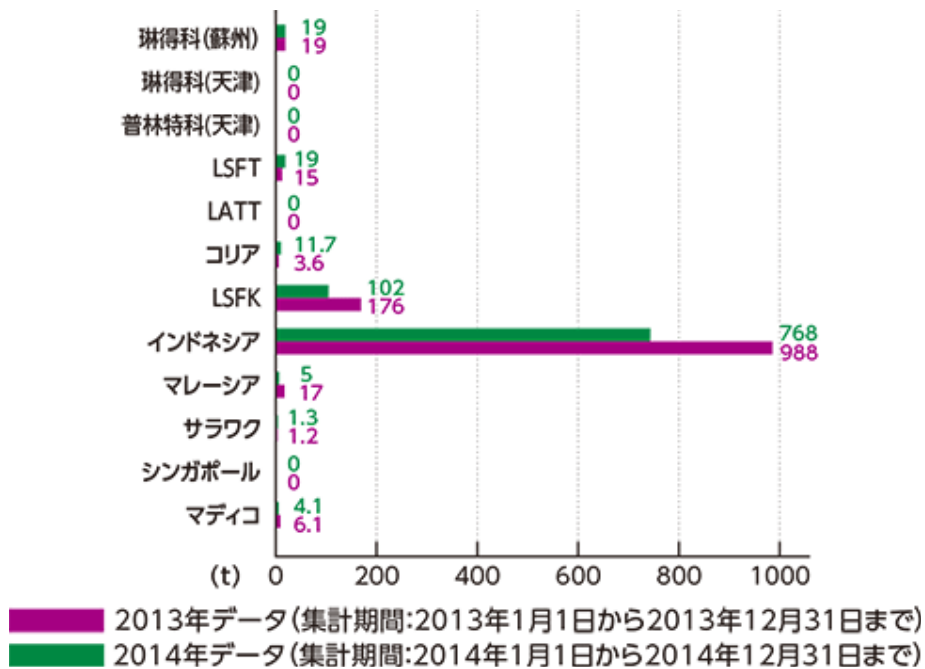


塗工設備に特殊加工を施し、残留塗工液を剥がせるよう改善

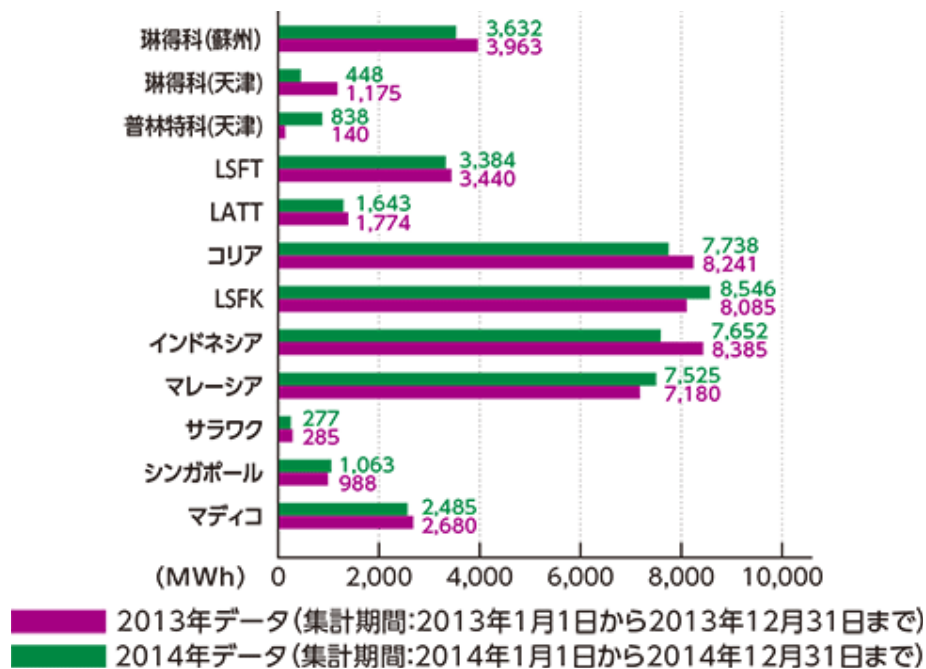
2014年 環境パフォーマンスデータ

海外グループ会社12社における2014年の環境パフォーマンスデータは以下になります。

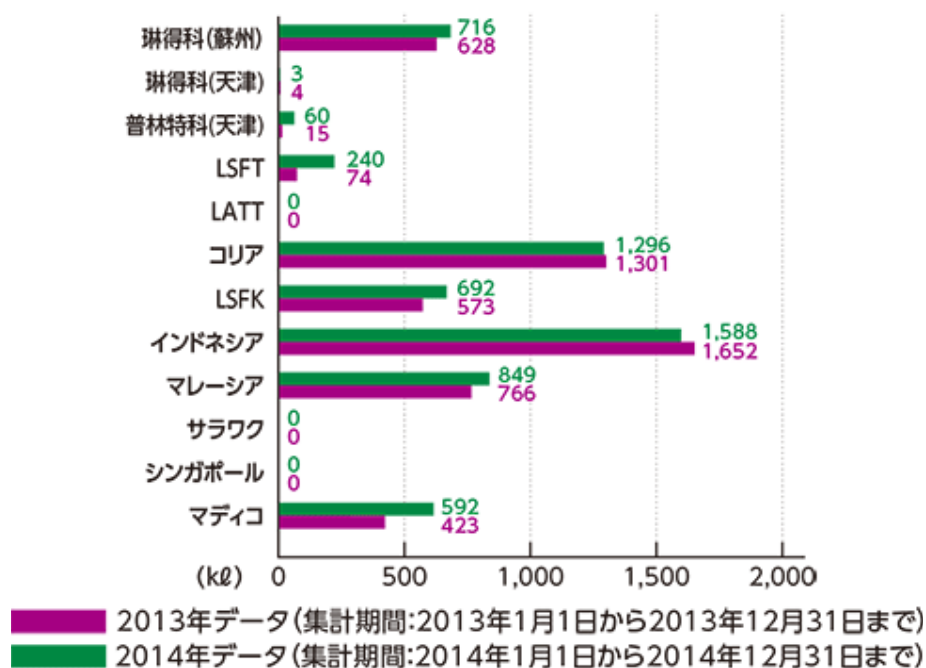
VOC排出量



電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



※1 VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。

※2 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。

※3 LSFT：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社 LATT：リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社
LSFK：リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

リンテックと環境のかかわり

リンテックグループでは、粘・接着製品や特殊紙、剝離紙などの加工材、粘着関連機器の開発・製造・販売を行っています。これらの事業活動に伴って環境中に排出する廃棄物やCO₂、トルエンなどのPRTR対象物質、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

2014年度 マテリアルフロー(国内のみ対象)



* OUTPUTには内販は含んでいません。

内部統制

リンテックグループ内部統制方針

リンテックグループ各社・各部門は、不正・違法行為・ミスの発生を防止し業務が適正かつ効率的に遂行されるよう、内部統制の整備・運用を強化します。

- リンテックグループのすべての役員・従業員等は、内部統制の整備・運用について役割と義務を負います。
- リンテックグループ各社・各部門は、諸手続きが関連法規、社内規程に則り適正かつ効率的に行われているかを確認するため、適宜自己チェックを実施します。
- 内部監査部門は、独立的立場からリンテックグループ各社・各部門の内部統制が有効かつ効率的に機能しているかを定期的に確認します。

制定 2013年10月1日

リンテック株式会社

コンプライアンス

リンテックグループ行動規範

|| 行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス(法令遵守)」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定

2011年4月改定

品質・環境・事業継続

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、国内外の法令・規制の遵守を含め、あらゆる社会的責任を果たすべく、公明正大かつ革新的な企業活動を実践する。

これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」「行動指針」を定める。

品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

〈行動指針〉

1. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
2. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
3. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
4. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
5. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
6. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
7. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

〈行動指針〉

1. 環境に配慮した製品の開発に努める。
2. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
3. 製品に含有する化学物質の管理を行い、グローバルな環境保全に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

地震・風水害等の自然災害、火災、パンデミック等、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクの発生に対し、その影響を最小に抑えるため、BCMS(事業継続マネジメントシステム)を構築し、継続的な改善を図る。

〈行動指針〉

1. グループ社員およびその家族の安全確保を最優先する。
2. 減災対策を常に意識し、事業への影響を最小化する。
3. 災害発生に対し、主要製品の速やかな供給再開により顧客への供給責任を果たす。
4. 被災地域の復興に貢献する。
5. BCMSのさらなる向上を目指し、PDCAを回して継続的な改善を図る。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

2013年9月1日 品質・環境・事業継続方針制定

2014年1月1日 品質・環境・事業継続方針改定

調達

リンテック原材料調達基本方針

1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理、紛争鉱物など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

2013年8月30日改定

リンテックグリーン調達方針

1. 取引先の皆様とともに、当社製品を構成する原材料や部品、副資材などの化学物質管理を推進します。
2. 積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進している取引先の皆様から、環境負荷のより少ない原材料や部品、副資材などを優先的に調達するよう努めます。
3. サプライチェーンマネジメントの観点から、取引先の皆様にも、それぞれの仕入先様とともに積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進することを求めます。
4. 「リンテック木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2006年6月1日制定

2009年8月10日改定

1. 調達方針および取り組み

(1) 違法伐採対策として、以下に該当する木材パルプを調達しません。

- (a) 違法に伐採された木材を原料にしたパルプ
- (b) 伝統的権利または市民権が侵害されている地域からの木材を原料にしたパルプ
- (c) 保護価値が高い森林からの木材を原料にしたパルプ
- (d) 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林からの木材を原料にしたパルプ
- (e) 遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材を原料にしたパルプ

(2) グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2. 合法性の確認

- (1) 「調達方針および取り組み」各事項の趣旨に則った自己宣言書を各取引先から入手します。
- (2) 木材パルプの調達に当たって、取引先から木材原料の伐採地域・樹種・数量などを記載したトレーサビリティレポートを入手します。
- (3) 関連資料については、5年間保存し、監査などの必要に応じて開示します。
- (4) 取り組み状況について、定期的に内部監査および日本製紙連合会によるモニタリング(調査および監査)を実施し、その概要をホームページなどで公表します。

2009年8月10日制定

2010年6月1日改定

2010年8月23日改定

グリーンパルプ・ウェイ

|| グリーンパルプ・ウェイ(Green-Pulp-Way)

グリーンパルプ・ウェイとは当社の環境配慮コンセプトです。同コンセプトに基づき特殊紙ならびにラベル用紙の製品設計・製造を行い、「地球環境への負荷を低減し、豊かな緑を未来へ残す」ことを目指します。

|| グリーンパルプ(Green Pulp)

グリーンパルプは当社の登録商標です。グリーンパルプは、合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ(森林認証パルプ、植林木パルプを含む)、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白(ECF)により製造されたパルプです。

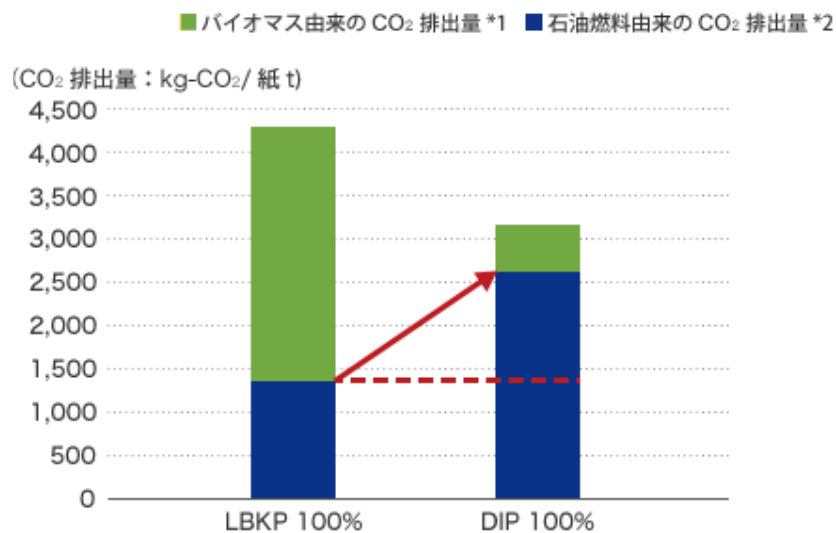
|| グリーンパルプ・ウェイの背景

当社は資源を有効利用する取り組みとして、古紙を原料とする再生紙の生産を積極的に進めてまいりました。一般に古紙を高配合すると品質(例えば強度)が低下することから、当社では厳選した良質な古紙を使用し、さまざまな要求品質を満たしてきました。しかし、ここへ来て中国などにおける古紙の需要増大による影響で、質を問わず古紙そのものの入手が非常に難しくなっており、古紙配合率の見直しが必要となってきました。

一方、近年急激に進行している地球温暖化は、自然の生態系や人間の生活基盤にさまざまな悪影響を及ぼすことから、世界的に早急な温暖化防止対策が望まれています。地球温暖化の主な原因は、化石燃料を使用することによる大気中の二酸化炭素(CO₂)の増加といわれており、森林はCO₂を固定することでその増加を抑制する効果があります。このため、適切に管理された森林からの木材を使用し、森林資源を保護していくことが地球温暖化の防止につながります。また、紙の製造工程においてはこれらの木材を原料としたパルプ(クラフトパルプ)を使用したときの方が、古紙パルプを使用した場合より化石燃料由来のCO₂排出量が少ないと報告されています。資源の有効利用の観点から古紙を使用することは重要ですが、古紙パルプを過度に高配合した紙をつくることは、結果として温室効果ガスであるCO₂の大気中への排出量増加につながります。

これらを踏まえ、当社はグリーンパルプを主原料にし、古紙パルプを使用する場合には要求品質に応じて最適に配合した製品を提供してまいります。なお、パルプ以外の原材料や副資材についても環境に配慮した選択と設計を行ってまいります。

クラフトパルプ(LBKP)と古紙パルプ(DIP)から上質紙1トンを製造する際のCO₂排出量



※(財)古紙再生促進センター、「古紙利用と環境影響に係る調査報告書」2001.3に基づき作成

*1 バイオマス由来のCO₂排出量とは、植物などの生物体が燃焼したときに排出されるCO₂量のことです。クラフトパルプの場合、木材に含まれるリグニン成分などをバイオマス燃料として製造工程で利用して必要なエネルギーの多くを賄うことができます。バイオマス燃料から排出されるCO₂は、木材の成長過程で固定した大気中のCO₂を再度排出するため、大気中のCO₂濃度を高めることはありません。

*2 化石燃料由来のCO₂排出量とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって排出されるCO₂量のことです。古紙パルプの化石燃料由来によるCO₂排出量は、図のようにクラフトパルプの約2倍量に達します。

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生方針

リンテックグループ全社員は、社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、労働災害の防止を図り、安全で快適な職場環境の形成と安全衛生水準の向上を適切かつ積極的に推進します。

1. 事業活動において、リンテックグループで働く人々の労働安全衛生を適切に推進します。
2. リンテックグループで働く人々の協力の下、労働災害および疾病の予防、健康維持と増進を継続的に推進します。
3. 生産現場におけるリスク評価を実施し、労働安全目標を定め、目標達成のための計画と活動および定期的な見直しによる改善を行います。
4. 労働安全衛生に関する法令、リンテックが同意する協定、指導などを遵守します。
5. リンテックグループで働く人々に対し、労働安全衛生に関する教育および啓蒙活動により、安全衛生確保の重要性と意識の向上を図ります。

2010年10月1日制定

リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

■ 計画(Plan)

法令／安全衛生計画、安全衛生目標など

■ 実施および運用(Do)

組織、役割、責任および権限／力量、教育訓練および自覚／コミュニケーションなど

■ 点検(点検・パトロール、改善)(Check)

監視および測定／内部監査など

■ 経営層による見直し(Action)

編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、本レポートでは2014年度の活動を中心に報告しています。全ての方に分かりやすく伝えるため、事業概要や特集ページを増やし、「企業統治」「社会性報告」「環境報告」のページでは主な活動を抜粋してまとめました。特集は「LINTEC WAY」と、「2025年のあるべきリンテック像」を紹介しています。特集1は「LINTEC WAY」について国内、海外からの声を集めました。特集2では2025年にリンテックとしてどうあるべきかを議論したワークショップについて紹介しています。冊子レポートは、ステークホルダー*とリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲載しています。CSRサイトには、冊子より詳細な情報を公開していますので、ご覧ください

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア



CSRレポート（冊子/PDF版）

■ [冊子]

リンテックグループのCSR活動を、分かりやすく掲載。

■ [PDF版]

英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



CSRサイト

リンテックグループのCSR活動を、より幅広くより詳細に掲載。

■ [日本語版]

▶ <http://www.lintec.co.jp/csr/>

■ [英語版]

▶ <http://www.lintec-global.com/csr/> 

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

対象期間

原則2014年4月1日～2015年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2015年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社12社の環境パフォーマンスデータについては、2014年1月1日～2014年12月31日を対象期間としています。

対象範囲とその表記

CSRサイト中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

■ 企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック（株）

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

■ 環境報告

「リンテック」：リンテック（株）の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工（株）

「リンテックグループおよび海外グループ会社12社」：上記および海外グループ会社12社*

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

* 海外グループ会社12社：琳得科（蘇州）科技有限公司、琳得科（天津）実業有限公司、普林特科（天津）標籤有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社、リンテック・インダストリーズ（サラワク）社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、LINTEC(THAILAND)CO.,LTD.、LINTEC KOREA,INC.ほか27社の決算日は12月末日です。作成に当たっては、連結子会社29社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

報告内容の信頼性確保

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

★マークについては[こちら](#)

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

第三者意見

企業経営の根幹ともいえる中期経営計画：LIP-2016において、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」が最重要課題であるとの認識がトップから示されています。これらに具体的にどう貢献できるかが、リンテックCSRの正念場であると、昨年の第三者意見で私は書かせていただきました。前者のグローバル展開を今後さらに積極的に図る中では、コーポレート・ガバナンスの全社的な強化が不可欠であることも、同様に指摘いたしました。

本年の報告書を読ませていただくと、トップメッセージの中で、「2014年度はガバナンス体制の整備に力を注ぎました。」とあり、具体的には、アジア圏における地域統括会社の設立、監査等委員会設置会社への移行、CSR勉強会の開催が挙げられています。さらに本文の記述で、ヘルプラインをグローバル化したこと、CSR勉強会を年間98回開催し、3,210名もの参加者があったことを知りました。

ステークホルダーの声に耳を傾けながら、この会社のDNAである「至誠」の精神が貫かれ、一步一步着実に実践されていることに、感銘を受けました。「至誠」の到達点は「信頼」にあります。こうした地道で一貫した取り組みがあればこそ、特集1に見られるような全世界の一人ひとりが、「LINTEC WAY」に対する思いを自分の言葉で語れるのだと思います。

さらに2014年度の大きな成果として、マテリアリティの特定がなされたことは、素晴らしい前進だと考えます。このことにより、従来ともすれば環境指標に比べて定量化がやや遅れていた社会性指標が体系的に整備され、社会性に関するPDCAサイクルが今後より円滑に回ることを期待しています。

「攻めのCSR」に目を転じるなら、CSRはイノベーションエンジンになり得るという確信が、この会社にはあるように感じます。だからこそ、特集2に見られるようなワークショップの開催につながっているのでしょうか。今後、社外の多様なステークホルダーとも多面的に連携を深めながら、「創造」の翼をはばたかせていってほしいと願います。それが「革新的な新製品の創出」につながることは言うまでもありません。

CSRの六つの基本姿勢の中には、コーポレート・ガバナンスと取引先が含まれるべきではないでしょうか。ガバナンスはESG（環境・社会・ガバナンス）の一角を占めるものであり、リンテック社の取引先は2,799社にもものぼっています。そのことを、最後に指摘し、提言しておきたいと思います。



ジャパン・フォー・サステナビリティ
多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを歴任。

多田様には2012年度版より当社CSRレポートिंगに対してご助言を頂戴しております。2015年度版では、私の経営姿勢でもある社是「至誠と創造」から成る一連のCSR活動への取り組みをご理解いただき、誠にありがとうございます。CSR勉強会などの機会を通じて行われたLINTEC WAYを共有する取り組みについては、受け入れ側である従業員の姿勢が大変重要であり地道な活動を継続することで、さらに一体感を醸成していけるものと信じています。

また、マテリアリティの特定作業はスタート地点に立った段階であり、今後の活動でKPIを策定するなど、PDCAサイクルを確実に回す仕組みづくりに取り組んでいかなければならないと考えています。至誠から成る「守り」のCSRを強化していきます。

CSRを推進することは事業の円滑化にも寄与するものであり、創造から成る「攻め」のCSRに直結する活動が多くあると考えています。CSR活動をイノベーションエンジンに変えられるように、CSRワークショップなどの取り組みを積極的に進めていきます。

CSRの基本姿勢については社会情勢の変化を真摯にとらえ、その情勢に合わせた基本姿勢の策定に取り組んでいきます。

今後もCSRを基本に置いた企業活動を強化・推進することで、だれからも評価され、信頼される企業を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

トップメッセージでは社是「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、社会や人のために尽くしていくことについて触れています。また、特集1では、リンテックおよびグループ会社従業員の「LINTECWAY」への思いを掲載しました。特集2は、「2025年のあるべき姿を考える」ワークショップについて紹介しています。全従業員が一体となり、社会的な課題に応えられる企業を目指してCSR活動を継続していきます。



「リンテックグループCSRレポート2015」
制作プロジェクトメンバー